

令和5年度

事業報告書



社会福祉法人 大野福祉会

目 次

はじめに	1
I 各事業所の状況	2
II 総務課	5
財政運営（令和5年度 決算状況）	
防災・防犯対策 看護業務	
III 救護施設 大野荘	15
利用者状況 個別支援計画 班活動 全体活動	
自治会（がんばろう会） 一時入所事業 居宅生活訓練事業	
緊急一時宿泊事業	
IV 障害者支援施設 むつみ園	26
利用者状況 個別支援計画 施設入所支援事業 生活介護事業	
短期入所事業 日中一時支援事業 全体活動	
V 障害福祉サービス事業所 よもやま	36
利用者状況 就労継続支援B型事業	
VI 共同生活援助事業（グループホーム）	41
利用者状況 世話人会の開催	
VII 地域支援課	43
派遣研修実績 所内研修（大野荘・むつみ園） 復命報告	
各種研究会 行事企画 地域との交流活動 ボランティア	
機関紙の発行、ホームページ 教育実習	
VIII 相談支援事業	51
指定特定相談支援・指定障害児相談支援 指定一般相談支援	
生活困窮者自立相談支援事業 生活困難者総合相談・生活支援事業	
IX 苦情解決報告	56
救護施設 大野荘 障害者支援施設 むつみ園	
障害福祉サービス事業所 よもやま 共同生活援助事業所（グループホーム）	
ひやりはっと・事故報告 第三者委員の所見	

はじめに

令和6年1月1日、石川県能登を震源とする能登半島地震が発生したことについて、被害に遭われた皆様へ心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早く元の生活に戻れることをお祈りいたします。

さて、令和5年度の大野福社会の事業報告についてであります。5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に引き下げられ、また地域の感染状況も比較的落ち着いてきたこともあり、面会や外出の制限のほか日課活動や行事等も、その時々状況を勘案しながら解除、または内容を一部変更し実施するようになりました。しかし、年度を通じて利用者、職員から感染者は出ており、クラスターこそなかったものの、まだまだ安心できる状況ではないと痛感した1年間でありました。

そのような中、施設整備事業については、全体では合併浄化槽の改修工事のほか大野荘では非常用発電機及び水中ポンプの更新、むつみ園ではスチームコンベクションなど厨房機器の入替え、よもやまではリサイクル作業の空き缶プレス機の更新をしました。

また、事業運営では、入所利用者の減少や重度・高齢化が引き続き大きな問題であり、要介護の利用者も年々増える状況が、支援内容増加の要因にもなっており、職員の人材不足と共に、法人運営に大きな影響を与えています。

これら現在の状況の改善を図るとともに、社会情勢や事業実績等を分析しながら、安定した事業運営ができるよう努めていきたいと考えております。

令和5年度の各事業の詳細につきましては、別紙のとおり取り纏めさせていただきました。利用者の人権を守りながら、利用者一人ひとりの自立に向けた個別支援を基本として業務にあたっていきたいと思っております。

令和6年5月

社会福祉法人 大野福社会

I 各事業の状況

【1】救護施設 大野荘

定員を130名とし運営を行っているが、令和5年度の状況は、入所10名、退所8名で年度末時点では125名であった。退所理由は、他施設（GH含）への移行が2名、死亡による退所が3名、地域移行が1名となっている。やはり高齢化による影響は大きく、常時5名前後の入院者がいるため、関係機関と連絡を取りながら安定した施設運営ができるよう努めた。また、令和6年1月1日の石川県能登半島地震により、七尾更生園から避難者2名の受入を行った。

利用者の平均年齢が69歳を超え（女性に至っては73歳超）、高齢・重度化が顕著に進んでおり、それに伴い身体的介護の他、認知症者への支援も増大してきている。また、精神疾患を抱える入所利用者が全体の60%を超え、入院先から地域社会への復帰が困難な利用者の受け皿となっていることや触法者や、生活困窮者など障害種別が多岐にわたっているため、利用者へのきめ細かな個別支援計画の作成を行い支援にあたっている。

一時入所事業としては、年間9名の方の利用があり、このうち4名は入所となった。

地域移行に向けた居宅生活訓練事業については、昨年に続き男性3名が事業を利用し、3月に1名が地域移行し、現在も新しい利用者が入り継続して訓練を行っている。

支出の状況は、事業費では旅行（日帰り旅行は実施）や行事等が予定通りに開催することができなかったことで、教養娯楽費については減額となっているが、燃料や電気代の高騰により、燃料費、水道光熱費を増額した。物価の高騰も続き、価格に精査や購入量の見直し・検討を行うとともに、衛生用品等は県からの補助金を活用しながら利用者の生活に影響が出ないように行った。

【2】障害者支援施設 むつみ園

むつみ園は、医療機関で長期治療中の方の死亡退所が3名、石川県より入所が1名あり、年度末現在29名の入所利用となっている。現在個室は満室になっており、自閉症や強度行動障害の方の受入れはすぐにできない状況である。

利用者の状況は、昭和35年の法人設立当初から施設利用されている方も含め、25年以上在籍されている利用者が多く、平均年齢が68.2歳と県内の障害関係施設の中でも超高齢化が進んでいる。障害支援区分は、区分5と6の利用者が7割以上を占め、車いすや歩行器を利用される方が9名、また22名の方がベッドを利用されている。いずれも身体的な介護の必要な方が多く、職員がマンツーマンで介護支援にあたる場面が多くなってきている。そのため生活介護サービスとしては、社会への自立が極めて困難な重度者への支援と身体機能が低下している高齢者への支援の両方が求められ、支援に当たっては利用者信頼関係を結びながら施設内での身体機能保持と介護を中心とした個別支援メニューだけでなく、利用者の日課や情操教育等に取り組めるよう支援にあたってきた。

個別支援では、感染対策を行いながら少人数での買い物外出や外食・日帰り旅行などのほか、個別外出など一人ひとりの要望に沿った支援や園内で取り組める活動を提供した。

またコロナ感染症が5類になり、少しずつ交流行事やスポーツ大会が行われるようになり、参加することができた。

短期入所事業については、男子1名、女子1名、計2名の方が年間を通して利用している。その他に、緊急時に対応できるよう女子3名の方を受入れ自立した生活への支援と家族のレスパイトに応えられるよう体制を整えた。

日中一時支援事業については、奥越支援学校と連携しながら放課後の利用と長期休暇の利用を合わせて2名の方が利用を行った。

【3】就労継続B型事業所 よもやま

11月に長期入院をされていた方が1名利用を終了し、定員20名のところ16名の利用者でリサイクル事業、食品加工事業、販売事業、下請事業の4部門の作業活動を行い、それぞれの利用者の就労能力を考慮しながら、就労を通じて自立に向けた作業活動を行ってきた。

今年度は物価や燃料費が高騰し、収益を増やすことは出来なかった。しかしイベント販売やセルフ協・スーパー等での委託販売の拡充を行ったほか、市からの作業委託や公共施設の清掃・除草作業を積極的に取り組み収益につなげた。12月にはショッピングセンターVIOにてよもやまマルシェの開催や甘栗の実演販売を行った。リサイクル作業については、空き缶プレス機を購入したことで出荷量が増え平均工賃は月額28,492円を配分することができた。

平成20年からはじめた事業であり、15年が経過した現在では半数以上の利用者が60歳代であり、作業能力の減退或いは年齢等が原因となって利用日数が減っている。今後も作業種目の変更や、収入効率の高い作業の検討を行い、安定した作業収益を求めていきたい。

【4】グループホーム（GH）

令和4年度10月にさわらびホームを廃止し、GH1（ひまわり・かささぎ）、GH2（たんぼぼ・うぐいす）の2ホーム体制へと再編成された。再編と同じくして、利用者1名がアパートでの単身生活へ、1名が他事業所のグループホームへ、もう1名が入所施設へと移行され、令和5年度は、実質19名の利用者でスタートとなり、さらなる安定的で持続可能な運営を目指すための、一体的な運営に向け模索する期間であった。

地域生活を支える支援においては、年々深刻となる高齢化への対応に、通院や受診の支援をはじめ、買物等の外出支援、入浴や洗濯等衛生保持に関する支援、日中活動へ参加できない場合の日中の支援等、多岐にわたり支援の度合が増している昨今である。そのような中、利用者が真に望む生活や暮らし方や思いを受け止め、本人にとっての最適な生活を意識し、一人ひとりと対話を重ねながら、相談支援専門員と連携し、生活の見直しや次なるステージへの相談を続けている。

【5】社会貢献事業

大野市から委託を受けている生活困窮者自立相談支援事業のほか、県内の法人連携による、ふく福サポート事業及び法人独自の緊急一時宿泊事業を社会貢献事業として位置づけ、様々な問題を抱えた方々の自立を支援し、生活困窮に陥らないよう一体的な支援を実施している。

自立相談支援については、大野市自立相談支援センター「ふらっと」において常勤1名の相談員を配置し支援を行ってきた。

年間の相談件数は47件であり、相談内容としては昨年同様、収入や生活費等の家計に関する相談や失業求職、債務等についての他、家族や本人の人間関係や健康面の相談も多くあり、引きこもりと共に増加傾向であった。また、生活の立て直しを図るための家計改善支援事業や就労準備支援事業、居住確保支援金などの支援を合わせて実施しているが、認定就労訓練事業（各事業所ごと）の利用は無かった。

県内の法人連携による生活困難者の総合相談・生活支援事業（ふく福サポート事業）については、延べ10件の相談があり、食料や水道光熱費などの223,418円の現物支給を行った。

その他、法人独自の事業として行っている緊急一時宿泊事業については、令和5年度は5件（3名が女性）の受入をした。徐々にではあるが増加傾向にあり、当法人の地域貢献事業として今後も継続して事業展開を行うこととする。

Ⅱ 総 務 課

【1】財政運営（令和5年度 決算状況）

運営の透明性を確保するため財務諸表等については、ホームページ上にて詳細を掲載するが、各拠点区分の事業内容と共に前年度の収支比較により決算状況の報告をする。

物価高騰が続いているが、各事業で慢性的に定員割れが生じていることもあり、給食費、日用品費、消耗器具備品費等の支出額は前年比で抑えられている。しかし、電気代や原油価格高騰のあおりを受け、水道光熱費、燃料費の支出が大幅に増額となっている。

①救護施設 大野荘

	(単位：千円)		(単位：人)	
	R 4 年度	R 5 年度	R 4 年度	R 5 年度
収 入	511,619	362,447	延べ利用者数	1,406
支 出	619,075	347,300	月平均人数	117
積 立	0	0	入院延べ日数	2,687

収 入

- ・ 育児休業していた職員3名全員が復帰した状態で今年度を開始したため介護職員加算を1名算定し、看護師加算1名と合わせての加算認定となった。また、定員を130名に減員して2年目になるが、慢性的に入所者数は下回り、生活保護事業収入の安定には繋がらなかった。居宅生活訓練事業は継続申請をして施設機能強化推進費6,765千円の収入であった。また、生活困窮者支援事業は5,000千円で大野市と委託契約をして実施した。
- ・ 福井県の感染症に対する衛生管理体制確保支援事業補助金を継続申請し、今年度補助対象物品の見直しがあり、事業実績に基づき575千円の補助金収入があった。
- ・ 大野市より光熱費及び物価高騰に対する支援として、年間4,059千円の給付があった。
- ・ 非常用予備発電装置更新のため、3,850千円の施設整備積立資産を取崩して財源とした。

支 出

- ・ 数年間続いた大規模施設整備も前年度で一区切りを迎えたことに加え、5月に新型コロナウイルス感染症の5類移行もあり、通常の運営状況に近づいた。
- ・ 同時に3名の育児休業を取得した時期もあったが、年度通して全員揃ったこともあり人件費支出は増大した。
- ・ 水道光熱費支出は、電気代の実質値上げと、夏場の記録的な猛暑、暖冬とはいえ寒い日が長く続いた冬場も影響し、支出額が膨らんだ。
- ・ ライフラインの工事では、地下水を汲み上げる水中ポンプの劣化により、給水が追い付かず食事や入浴に影響を及ぼしたため1,100千円の更新工事を実施した。また、合併浄化槽内の配管に腐食が見られ、むつみ園と按分し1,062千円の入替工事を実施した。
- ・ 老朽化の指摘を受け、令和6年度に更新を予定していた非常用予備発電装置が年度途中で全く機能しなくなる故障となり、建物付属設備取得支出3,850千円で更新工事を行った。

- ・大野福社会体育館に無線LAN（Wi-Fi）環境を整え、利用者の支援に役立てている。

②相談支援事業所 大野荘

(単位：千円)

	R 4年度	R 5年度
収 入	4,331	3,992
支 出	5,828	6,666
積 立	0	0

(単位：人)

延べ利用者数	R 4年度	R 5年度
計画相談	199	179
障害児相談	31	23
地域移行相談	7	16

収 入

- ・計画相談に対するサービス利用計画作成費として自立支援給付費収入が3,619千円となり、昨年度より661千円の減収であった。
- ・大野市より光熱費及び物価高騰に対する支援として、年間43,500円の給付があった。

支 出

- ・単年度の障害福祉サービス等事業収入だけでは、事業運営ができず、不足する経費として、前期末支払資金残高を取崩して事業運営に充てた。

③障害者支援施設 むつみ園

(単位：千円)

	R 4年度	R 5年度
収 入	155,234	137,876
支 出	150,696	152,418
積 立	1,000	0

(単位：人)

延べ利用者数	R 4年度	R 5年度
生活介護	8,089	6,882
施設入所	11,387	9,818
短期入所	122	137
日中一時	167	181

収 入

- ・むつみ園の月平均利用者数は、生活介護25.4名、施設入所26.8名、短期入所2.8名の利用となった。生活介護・施設入所共に利用者が減り、障害福祉サービス等事業収入が16,288千円の減収となった。そのうち、大野市からの委託事業としての日中一時支援事業においては、前年度より41千円減収になった。
- ・事務所、女子更衣室の冷暖房エアコンへの入替と厨房機器購入等のために施設整備積立資産3,110千円の取崩を行った。
- ・大野市より光熱費及び物価高騰に対する支援として、年間1,454千円の給付があった。

支 出

- ・施設整備では、事務所、女子更衣室の冷暖房エアコンの入替工事、厨房のスチームコンベクションオープン、盛付台2台を備えた。設備面では定例の消防用設備点検で不良が判明した箇所の改修を行った他に、灯油地下タンク液面指示計を220千円で修繕。また、合併浄化槽内の配管に腐食が見られ、大野荘と按分し455千円の入替工事を実施した。
- ・前年度に整備した無線LAN(Wi-Fi)環境を活用し、支援に役立てるようiPadを導入した。

④障害福祉サービス事業所 よもやま

(単位：千円)

(単位：人)

	R 4 年度	R 5 年度	延べ利用者数	R 4 年度	R 5 年度
就労支援事業収入	10,906	9,237	就労継続B型	3,835	3,425
就労支援事業支出	10,929	9,200			
収入	32,649	30,122			
支出	31,268	31,992			
積立	0	0			

収 入

・就労支援事業収入は、リサイクル・食品加工・販売・下請の4事業で9,237千円（内部取引含む）の事業収入となった。4事業とも前年比で減収となり、特に販売事業で637千円、下請事業で750千円の大幅な減収となった。

・障害福祉サービス等事業収入については、高齢化もあり利用者数や利用日数が減り始め、28,119千円となった。

・前年度故障した空き缶プレス機の更新のために施設整備積立資産2,000千円を取崩した。

・大野市より光熱費及び物価高騰に対する支援として、年間164千円の給付があった。

支 出

・施設整備としては、空き缶プレス機の故障により、コンパクトに圧縮できる油圧式空き缶圧縮機に入替えた。また、リサイクル室のトイレのウォシュレット便座を入替えた。

(単位：千円)

	R4年度※			R5年度		
	収入	支出	積立	収入	支出	積立
GH 1	-	-	-	18,005	19,146	0
GH 2	-	-	-	17,944	19,180	0
GH合計	-	-	-	35,949	38,326	0

※令和4年度は半期でグループホーム統合によりサービス区分間の収支もあり比較対象とならないため記載せず

収 入

(単位：人)

・前年度の下半期から現体制へ移行したため、収支とも比較はできず。

・大野市より光熱費及び物価高騰に対する支援として、年間711千円の給付があった。

延べ利用者数	R4年度 下半期	R5年度
GH 1	1,635	3,288
GH 2	1,568	3,225

支 出

・住環境整備ではGHひまわりの老朽化が著しく、温水器や放流ポンプの入替を行った。また、GHたんぼぼの雨漏りでサッシの入替を行った。

・単年度の事業収入だけでは、事業運営ができず、不足する経費として、前期末支払資金残高を取崩して事業運営に充てた。

〈考 察〉

予算については、各部署からの事業計画・予算案に基づき精査後、理事会での審議を経て執行している。

社会福祉法の改正により、内部留保の額に制限ができ上限を超えた内部留保である社会福祉充実残額は既存事業の充実や新規事業などに再投下されることになり、安心安全な環境の整備を行い、利用者の方へのサービスの向上、業務の効率化・省力化につなげるとともに、法人として積極的に地域貢献事業を実施していく。

建物や設備等が老朽化している事業所もあり、不測の事態に陥る前に、施設整備を計画的に実施していく必要がある。

各事業で定員割れが常態化しており、法人全体で収入減少が顕著である。長引く物価上昇に増して、追い打ちをかけるように電気料金の値上げ、原油価格の高騰が続いており、経営の圧迫に繋がっている。グループホームの統合やむつみ園とよもやまの多機能型へのシフト等、収入面の安定に向け、これまで以上に財務状況を正確に把握し、計画的且つ戦略的なアプローチで財務の健全化を図り、福祉人材の確保・施設機能の活用を促進していく。

【2】防災・防犯対策

利用者の安全・安心な生活を重要課題とし災害に備え、防災訓練、防災教育、研修等を実施すると共に、防災設備及び備蓄の点検・補充を行った。

《防災対策》

(1) 防災訓練の実施状況

年に数回、想定を変えて避難訓練を実施し、訓練終了後には意見や感想を聴取し、災害時や次回の訓練に反映出来るよう職員間で情報共有を図っている。

実施事業所	項目	実施日	内容
大野荘	消火・避難・通報訓練	令和5年6月20日	平日の日中に震度5強の地震が発生し、その後厨房より出火
	消火・避難・通報訓練	令和6年3月22日	平日の日中に震度5強の地震が発生し、その後厨房より出火
	非常招集訓練	令和6年2月1日	火災通報装置の作動によりホットラインが正常に機能しているのか、職員への連絡がスムーズに行われているかの確認
むつみ園	消火・避難・通報訓練	令和5年6月22日	平日の日中に震度5程度の地震が発生し、その後厨房より出火

むつみ園	消火・避難・ 通報訓練	令和5年9月22日	夜間、女子寮居室より火災発生し、 避難訓練を実施
GH たんぼぼ	災害時避難・ 通報訓練	令和5年8月23日	洪水（内水）災害を想定し、避難訓 練実施
	消火・避難・ 通報訓練	令和5年9月15日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和6年3月15日	日中、震度5強の地震発生、家屋倒 壊、火災の恐れ有
GH かささぎ	消火・避難・ 通報訓練	令和5年9月21日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和6年3月22日	日中、震度5強の地震発生、家屋倒 壊、火災の恐れ有
GH ひまわり	消火・避難・ 通報訓練	令和5年9月21日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和6年3月12日	日中、震度5強の地震発生、家屋倒 壊、火災の恐れ有
GH うぐいす	消火・避難・ 通報訓練	令和5年9月25日	夜間、台所より火災発生し、避難訓 練を実施
	災害時避難・ 通報訓練	令和6年3月19日	日中、震度5強の地震発生、家屋倒 壊、火災の恐れ有
よもやま	消火・避難・ 通報訓練	令和5年9月27日	食品加工室より火災発生し、避難訓 練実施
すてっぷ	消火・避難・ 通報訓練	令和5年6月28日	夜間、台所より出火を想定し、避難 訓練を実施
	消火・避難・ 通報訓練	令和6年3月18日	夜間、台所より出火を想定し、避難 訓練を実施
共 通	総合防災訓練 消火・避難・ 通報訓練・ 非常招集	令和5年10月25日	夜間、大野荘の厨房より出火しむつ み園への延焼の恐れを想定し、避難 訓練を実施

(2) 防災設備等について

- ・各事業所で委託業者による消火器、スプリンクラー、誘導灯及び標識、防火戸、自動火災報知設備等の保守点検（年2回）を実施し、不良箇所は修理・交換等を行った。

(3) 備蓄物品の点検

- ・食糧及び物品備蓄の内容・在庫数・消費期限及び使用期限を点検し、交換や補充を行った。（大野荘・むつみ園）

(4) 研修について

- ・看護師によるガウンテクニックの講習を全職員対象に8月以降に実施した。
防犯研修会を11月21日、大野福祉社会体育館にて行った。(利用者14名、職員20名の参加)
大野警察署生活安全課署員より、不審者対応で実技・訓練・防犯の講和を受けた。
- ・AED研修会を2月14日、大野福祉社会体育館にて行った。(職員25名の参加) 大野消防署員より、救急救命でAEDの使用方法を含む心肺蘇生法を学んだ。

(5) 福祉避難所について

- ・むつみ園では、原子力災害による避難訓練を実施。あいの里からの避難者を受入予定。

【3】看護業務

救護施設 大野荘

(1) 検査・検診の実施状況

項目	月日	実人数	実施機関名	内容	結果
春の内科検診1班	6月14日	19	嘱託医	⑤⑥⑦	1名治療開始
春の内科検診往診2・3班 往診班以外	6月16日 6月21日	52 38	嘱託医	⑤⑥⑦	1名治療開始
生活習慣病検診	9月29日	92	福井健康管理協会	①～⑧	22名糖尿疑 1名肺癌
インフルエンザ予防接種 1・2・3班	11月 8.15日	53	嘱託医	⑤⑥⑦	
インフルエンザ予防接種 班外	11月22日	59	嘱託医	⑤⑥⑦	

* 検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

- ・内科、精神科定期通院は1ヶ月に1回受診
- ・内科嘱託医による内服者月1回往診、精神科嘱託医による対象者月1回往診
- ・血圧測定、体重測定、血糖測定は月1回実施
- ・新型コロナワクチン接種最終日 令和5年10月4、12、19日実施。
(体調不良者、入院者、新規入所者は随時実施)
- ・内服状況 ①内科薬59名 ②精神科薬89名 ③その他(脳・皮・眼・整)15名

(2) 施設内での保健衛生実施状況

月日	実施項目	内容
5月11日	脱水症予防対策	入浴前後に水分補給開始
7月3日	全体保健指導	クルクル耳マッサージ 血行不良、浮腫予防ジグリング 熱中症予防ポスター各棟配布
6月30日	害虫駆除	バルサン散布、アースノーマットの配布

10月4日	空調設備の清掃	通気口掃除（細菌感染対策）大掃除
11月1日	全体保健指導	感染症対策について 正しい手洗い方法、マスク着用について

（３）年間入院状況

	県立病院	済生会病院	福仁会病院	たけとう病院	尾崎病院	勝山総合病院	その他	合計
実人数	15	9	61	18	4	17	10	134
延べ日数	206	68	1,570	415	46	243	191	2,739

（４）年間通院状況

	内科	外科・ 整形外科	精神科	歯科	皮膚科	眼科・ 耳鼻科	泌尿器科	その他	合計
実人数	107	141	549	33	30	54	20	56	990
延べ日数	132	82	534	55	43	67	27	69	1,009

（５）年間処置数

	傷処置	不眠・ 不穏薬	軟膏	点眼	パウチ	下剤・ 坐薬	解熱・ 鎮痛剤	血糖 測定	その他	合計
実人数	126	141	549	59	27	434	150	28	129	1,643
延べ日数	547	444	3,137	1,411	295	1,546	396	1,307	359	9,442

※パウチ交換の実数は表示以上である。（自己管理者、排泄時の漏れによる交換を実施）

障害者支援施設 むつみ園

（１）検査・検診の実施状況

項目	月日	実人数	実施機関名	検査項目	結果
春内科検診	7月12日	28	嘱託医	⑤⑥⑦	内服変更4名
生活習慣病健診 (歩行困難者対象)	4月4日～ 8月24日	7	嘱託医	①～⑧	精密検査2名
生活習慣病検診 (むつみ園)	9月29日	18	予防医学協会	①～⑧	精密検査2名
生活習慣病検診 (よもやま・GH)	9月29日	15	予防医学協会	①～⑧	精密検査0名

*検査項目：①検尿②血液検査③心電図④胸部XP⑤血圧測定⑥問診⑦聴診⑧身長体重

- ・内科、精神科は嘱託医による月1回の往診
 - ・血圧測定、体重測定 月1回実施 ・血糖測定 月1回実施
 - ・インフルエンザ予防注射は11月8日に実施（入院者は入院先で実施）
 - ・内服状況 ①内科薬23名 ②精神科薬 21名 ③その他（皮・整・耳）3名
 - ・新型コロナワクチン予防接種は春接種6月14日 ・秋接種11月17日（むつみ園）
11月24日（GH）実施（体調不良者、入院者は随時実施）
- 但し、利用者に関しては2名のみ同意が得られず実施していない。

(2) 施設内での保健衛生実施状況

月 日	実施項目	内 容
6月5日	環境整備	アースノーマット配布
6月29日	熱中症予防対策	入浴前の水分補給開始
7月6日	全体保健指導	熱中症・歯磨き・水虫について
12月7日	全体保健指導	冬の感染症予防と転倒予防について
通年	感染症予防対策	手洗い・手指消毒励行・施設内換気・消毒の発信 園内環境整備・必要時マスク着用の発信

※毎週木曜日（女子）金曜日（男子）は棟毎に個人用のコップ、水筒の消毒実施。

※害虫駆除・空調設備の清掃等は一斉作業で報告とする。

(3) 年間入院状況

病院名	松田病院	尾崎病院	県立病院	勝山総合病院	たけとう病院	福仁会病院	合 計
実人数	2	25	3	2	9	3	44
延べ日数	59	680	66	37	159	75	1,076

※病名 肺炎、統合失調症、不穏、廃用性症候群、嚥下障害、肝硬変など

(4) 年間通院診療科

	内科	外科 整形	精神科	耳鼻 咽喉科	眼科	皮膚科	泌尿器科	脳外科	その他	合計
実人数	52	22	113	14	11	16	14	1	35	278
延べ日数	80	24	130	22	11	20	20	3	47	357

※内科、精神科の往診は含まず。

(5) 年間処置

	傷処置	軟膏 処置	点眼・ 点耳	摘便 下剤 座薬	不穏時 不眠時	血糖 測定	解熱剤 感冒薬	湿布	その他	計
実人数	39	306	60	173	34	40	25	30	107	814
延べ人数	370	8,393	839	1,054	78	40	88	750	204	11,816

【4】給 食 業 務

救護施設 大野荘

コロナウイルス感染対策を第一とした提供が安心安全の主流となり、利用者にとって楽しみの一つである食事への要望に応えられるように、給食関係者はほぼ毎日話し合い改善に努めた。調理員は日々の衛生管理、体調管理を怠らず、急な対応に応じるために業者と

連携し、利用者にとって安心して安全な食事提供に努めた。食事形態については、咀嚼・嚥下困難者が増えたことで見直しが多く、また、退院時の変更も多かった。急な体調変化にも応えられるよう、他職種との連携を欠かさずに直ぐに対応した。

1. 栄養摂取量（一人1日平均）

品目	目標値	摂取量	比率	品目	目標値	摂取量	比率
熱量kcal	1,650	1,840	112%	ビタミンA μ g	450	706	157%
蛋白質g	50	71.4	143%	ビタミンB1mg	0.9	2.67	297%
カルシウムmg	550	675	123%	ビタミンB2mg	0.9	1.13	126%
鉄分mg	6.0	11.9	198%	ビタミンCmg	80	109	136%
						食塩相当量	9.0g

2. 食糧構成（一人1日平均）

食品類別	目標値(g)	摂取量(g)	食品類別	目標値(g)	摂取量(g)
穀類	245	289	野菜類	300	370
芋類	70	70	果実類	50	74
魚介類	70	65	海藻類	7	12
肉類	30	45	種実類	1	2
卵類	30	28	油脂類	5	6
乳類	230	223	調味料	25	35
豆類	75	78			

3. 栄養指導

全体栄養指導（6・12月）

全員が集まることが出来るようになり、感染症対策の基本となる手洗いの大切さ、栄養価の高い食材や栄養素の話をしたあとは、引き続き関心が持てるよう談話室にて資料を掲示した。

食事に関するアンケートを実施した。適温状態や味付け等概ね良い評価であったが、改善を求める意見もあった。

4. 事故、ひやりはっと報告

食事中に利用者の申し出による異物混入が1件あった。まずは厨房関係者が衛生管理を徹底することを確認し合った。

5. 給食行事

季節を感じる食材を取り入れることは勿論、歳時にも特別感を感じられる献立を取り入れた。毎月の特別献立の日は、要望の多い献立を取り入れるようにした。

外出制限が続く中で食事を楽しみの一つと捉える利用者の思いに答えられるよう利用者からの声を大切にしたい。意見箱から献立に関する希望要望があった時はできる範囲内で取り入れ、困難と思われる内容は理由を丁寧に説明した。

障害者支援施設 むつみ園

感染症対策は引き続き行いながら、安全安心な食事提供を行った。

嚥下・咀嚼困難者が増加したことで食事形態を見直した利用者が増え、調理作業にも影響があった。また、物価上昇が止まらず委託業者の負担も増えたことで個別対応にも影響があり、他職種と連携し様々な工夫を行った。

定期のミーティングの他に、利用者への負担を考慮しながら急な変更にも対応できるよう、その都度他職種と連絡体制を密にミーティングを行った。ミーティングでは、検食簿からの意見や利用者の嗜好に関する事も話し合い、出来る限り献立に反映した。

1. 栄養摂取量（一人1日平均）

品目	目標値	摂取量	比率	品目	目標値	摂取量	比率
熱量kcal	1,670	1,759	105%	ビタミンA μ g	560	600	107%
蛋白質g	45	58.5	130%	ビタミンB1mg	1.0	0.9	90%
カルシウムmg	570	643	113%	ビタミンB2mg	1.1	0.96	87%
鉄分mg	6.0	9.5	158%	ビタミンCmg	80	87	109%
						食塩相当量	8.1g

2. 食糧構成（一人1日平均）

食品類別	目標値(g)	摂取量(g)	食品類別	目標値(g)	摂取量(g)
穀類	265	260	野菜類	300	320
芋類	50	37	果実類	50	41
魚介類	70	71	海藻類	5	1
肉類	40	57	種実類	1	1
卵類	30	23	油脂類	8	13
乳類	200	206	調味料	30	51
豆類	70	41			

3. 栄養指導

全体栄養指導（9月）

感染症対策をしながら実施。食中毒予防も含め手洗いの必要性和タイミングについて実践した。

日々の食事に対しての意見や要望を聞き、今後の食事提供に対する満足度向上を目指して嗜好調査を行った。

4. 給食行事

毎月、誕生会とご当地メニューを実施し、外出制限が続く中でも楽しみを持てるようにした。誕生会は事前に利用者から希望献立を聞き取ることによって特別感を持てるようにした。季節を感じる献立づくりを大切にしたい。

Ⅲ 救護施設 大野荘

【1】利用者状況

①実施機関（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

県内	福祉事務所or 健康福祉センター(C)	利用者数			県外	福祉事務所or 健康福祉センター(C)	利用者数			
		男	女	計			男	女	計	
福井県	福井 C	3	3	6	岐阜県	美濃市	1	1	2	
	丹南(鯖江) C	1	3	4		郡上市	0	1	1	
	丹南(武生) C	5	0	5		揖斐	1	0	1	
	二州 C	0	3	3						
	若狭 C	0	1	1	小計			2	2	4
	大野市	10	7	17	滋賀県	湖東地域	0	1	1	
	勝山市	3	4	7		長浜市	1	1	2	
	越前市	6	1	7	大阪府	枚方市	0	1	1	
	福井市	25	7	32	石川県	七尾市	1	0	1	
	坂井市	12	7	19	小計			2	3	5
	あわら市	1	0	1	県外合計			4	5	9
	鯖江市	2	1	3	総計			78	48	125
	敦賀市	5	3	8						
	小浜市	0	3	3						
小計		73	43	116						
私的契約		0	0	0						
県内合計		73	43	116						

②入退所状況（短期利用も含む）（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規利用者	男	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	3	7
	女	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3
退所者	男	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	女	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
月末在所者数	男	71	68	69	69	69	69	70	72	74	74	75	77	
	女	47	47	47	47	48	48	48	48	48	48	48	48	
	計	118	115	116	116	117	117	118	120	122	122	123	125	

③年齢別性別状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

区分\歳	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	0	1	4	3	7	8	16	23	15	77	67.2歳
女	0	0	1	0	1	6	6	10	24	48	73.6歳
計	0	1	5	3	8	15	22	33	39	125	69.7歳
%	0.0	0.8	4	2.4	6.4	12	17.6	26.4	31.2	100	

④在所期間状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

区分\年	1年未満	1～3	3～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25年以上	合計	平均年数
男	7	13	5	19	15	11	1	5	77	10年5ヶ月
女	1	5	3	9	8	6	2	14	48	18年11ヶ月
小計	8	18	8	28	23	17	3	19	125	13年10ヶ月
%	6.4	14.4	6.4	22.4	20	13.6	2.4	15.2	100	

⑤障害の状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他	合計
				身体的	身体精神	知的精神	身体的精神		
男	6	3	40	2	4	8	1	13	77
女	1	4	15	0	8	7	7	6	48
小計	7	7	55	2	12	15	8	19	125
%	5.6	5.6	44.0	1.6	9.6	12.0	6.4	15.2	100

⑥ADL状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

	全部介助	一部介助	自立	計
男	3	47	27	77
女	7	29	12	48
計	10	76	39	125
%	8.0	60.8	31.2	100

⑦入所状況

（令和6年3月31日現在）

No.	氏名	性別	入所日	実施機関	入所前
1	A	女	R5.7.19	敦賀市福祉事務所	介護施設
2	B	男	R5.9.1	坂井市福祉事務所	在宅
3	C	女	R5.10.27	福井市福祉事務所	在宅
4	D	男	R5.11.29	坂井市福祉事務所	在宅
5	E	男	R5.11.30	長浜市福祉事務所	在宅
6	F	男	R6.2.1	大野市福祉事務所	病院
7	G	女	R6.2.1	福井市福祉事務所	在宅
8	H	男	R6.3.1	丹南健康福祉センター（武生）	病院
9	I	男	R6.3.1	丹南健康福祉センター（武生）	病院
10	J	男	R6.3.1	福井健康福祉センター	病院

⑧退所状況

(令和6年3月31日現在)

No.	氏名	性別	退所日	実施機関	退所後
1	K	男	R5.4.5	福井市福祉事務所	GH
2	L	男	R5.4.18	勝山市福祉事務所	死亡
3	M	男	R5.4.21	越前市福祉事務所	死亡
4	N	男	R5.5.31	坂井市福祉事務所	社会復帰
5	O	女	R5.10.6	敦賀市福祉事務所	介護施設
6	P	女	R5.12.28	福井市福祉事務所	死亡
7	Q	女	R6.2.1	福井市福祉事務所	介護施設
8	R	男	R6.3.25	丹南健康福祉センター武生	GH

⑨面会状況

(令和6年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	6	3	2	9	2	4	6	4	3	3	6	3	51

⑩外泊状況

(令和6年3月31日現在)

外泊については5月に1件、支援を行い、実施された。

【2】個別支援計画

(1) 個別支援計画の充実

「救護施設個別支援計画書」Ver.0の作成ガイドに基づいて個別支援計画を立て、支援の充実を図った。又、支援した内容については、ケース記録に必ず記載するように周知徹底した。

(2) ケア会議の充実

確実にケア会議を実施するため、月初めには会議予定表を配り、会議当日までに資料を作成するよう呼び掛けた。又、ケア会議には利用者本人の参加も促し、利用者が自らの生活課題や目標設定に直接的に関わり、職員と共に個別支援計画の確認を行った。

(3) モニタリング月のケア会議実施状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
予定		24	21	18	24	27		24	20	18	27	24	227
実施		24	21	16	23	25		23	18	15	23	20	208
%		100	100	89	96	93		96	90	83	85	83	92%

(4) ケア会議の時利用者参画状況

男子棟	女子 かえで女子	けやき	こぶし	かえで男子	合計
5名	6名	1名	1名	3名	11名

〈活動の状況〉

予定通り実施する事が出来ず、次月以降に行う事が多々ある。日々の日課や通院付添いなどの業務が優先し難しい状況ではあるが、ケース担当が責任を持って個別支援計画の作成を行う。又、利用者参画が少なく、個別支援計画は利用者主体でなければならない為、来年度はより多くの参画を目指す。

【3】班活動

(1) なごみ班

活動状況

〈今年度（利用者最大85人）〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	16	19	15	19	15	12	17	15	12	15	14	13
延人数	664	830	618	794	618	504	688	583	492	622	610	600

感染症による対応でなごみ班活動が中止となることや、入浴・通院等により職員が不足し、活動が実施出来ないこともあった。

軽運動（歩行訓練・自転車漕ぎなど）では、利用者の心身の状態に応じ残存能力の維持や機能回復に努めた。ホットパックを取り入れながら身体の血行促進や疼痛の緩和も行った。また定期的に行うレクリエーション活動（ゲーム・ミュージックケア・カラオケ・おやつ会など）を通して、様々な障害を持った利用者に対し全員が参加出来るよう工夫しながら実施した。創作活動（塗り絵・ちぎり絵・折り紙など）では、利用者個々の能力に合わせた趣味性のある内容の充実を図り、季節に合わせた展示物の作成を行い、施設内で展示することで利用者に季節感を味わってもらった。また完成した作品の中から大野市の文化祭にも出展した。衛生面での支援やリラクゼーション（爪切り・耳かき・手足の保湿ケア・マッサージ）の提供も行った。

(2) こでまり班

活動状況

今年度は職員5名・利用者20名の合計25名で実施。施設内での作業となり、利用者の作業スペースが少なくなったため、人員の見直しを実施した。在庫や製品を置くスペースの確保についても課題となったが、倉庫を確保し、空きスペースを有効活用することで作業を継続していくことができた。またケイジパックの作業においては受注が少なくなり、作業に携わる利用者も減少したことから12月を持って作業を終了とした。

①月別作業従事者延べ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	14	10	12	12	13	8	12	13	13	15	10	11
総数	211	141	148	185	164	126	211	226	233	256	164	162

②作業収入

(単位：円)

月	阿部産業	ケイジ パック	中野化成	九頭竜 ワーク	合計
4月	50,719	0	32,160	26,928	109,807
5月	37,665	22,115	34,080	29,620	123,480
6月	42,791	0	47,640	26,928	117,359
7月	95,062	12,115	39,240	23,562	169,979
8月	72,197	0	18,240	23,562	113,999
9月	49,403	32,500	58,080	21,318	161,301
10月	56,430	0	46,080	21,318	123,828
11月	105,081	0	40,080	25,806	170,967
12月	91,362	39,900	61,200	22,440	214,902
1月	82,407		23,040	23,562	129,009
2月	70,682		72,000	23,337	166,019
3月	79,953		66,240	20,196	166,389
合計	833,752	106,630	538,080	288,577	1,767,039

(3) のぞみ班

4月は利用者19人でスタートし、翌年3月末には15名となる。作業内容は中野化成からの作業、墨汁キャップを行った。

①作業収入

(単位：円)

月	墨汁キャップ	しんちゃん箸	合計
4月	46,672	0	46,672
5月	25,508	0	25,508
6月	30,200	4,920	35,120
7月	10,708	0	10,708
8月	8,160	0	8,160
9月	12,480	0	12,480
10月	16,800	0	16,800
11月	16,800	3,444	20,244
12月	10,560	738	11,298
1月	13,920	0	13,920
2月	13,920	0	13,920
3月	22,080	0	22,080
合計	227,808	9,102	236,910

※しんちゃん箸の販売先 (イトヨの里会館)

②月別作業従事者延べ人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	18	11	19	18	16	18	19	18	15	17	18	17
総 数	252	161	178	169	207	234	266	242	211	224	254	230

〈活動の状況〉

今年度は、中野化成の作業が4月早々から製品に血が付いている等の苦情があった。職員が検査する為に2週間以上作業を中止した。その後、作業工程を一新して対応したため、以降は大きな苦情はなかった。

(4) 内勤班

炊事班は男性1名女性1名がシフト制で作業を行った。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染予防の為、数日作業に参加出来ない事があった。男性の方は年度内に2度入院が必要な状態で作業が出来なかった。女性の方も腰痛があり、休むこともあったが用心しながら作業を続けている。

洗濯班は女性利用者3名が所属しているが、主に作業を行っているのは1名の方で、1名は決められた日には参加しないが、休日などに作業を行っていたが年度末に転倒して骨折してしまい1ヶ月以上参加できなかった。他1名は、精神的に不調になることが多く入院が長くなり作業出来たのは数か月だった。どちらの作業班も人員不足の状態、特に洗濯班は高齢化していて後に続く人を探す事も難しいと思われる。

(5) 外勤実習班

個々の作業能力を発揮し、社会のルール・マナーを体得できる支援を行うよう外勤実習に取り組むために、利用者には職場に定着できるよう不満や問題に対して聴き取りを行い、継続した実習が行えるように対応した。

また、事業主とは定期的に連絡等を行い、利用者の状態確認を行った。

利用者名				事業所		備 考	
1	K	男性	68	阿部産業		R4年9月開始(大野荘)	

(現在は阿部産業1名となっている)

【4】全体活動

(1) サークル活動

○編み物教室

日 付	4/7	5/15	6/7	7/7	8/30	9/20	10/18	12/20	1/12
参加者	2	3	3	3	3	3	3	3	2

講師指導のもと、職員1名が対応して実施した。

○絵手紙教室

日付	4/19	5/17	6/28	7/19	9/27	10/11	11/29	12/13	1/24	2/28
参加者	5	6	7	6	6	3	4	4	3	2

職員1名が対応して実施した。

○お茶教室

日付	6/21	7/24	8/25	9/19	10/27	11/20	12/19	1/29	2/16	3/25
参加者	17	18	13	13	13	13	29	18	20	19

講師指導のもと、職員2～3名が対応して実施した。

○生け花

春、年末、年度末に、生け花が好きな利用者数名が参加して花を生け、各棟や玄関などに飾った。

(2) よろず相談 (利用者への何でも相談)

相談日時：毎週水曜日 午後1時15分～2時15分

相談受付者：課長補佐 係長

相談延べ人数

(単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	2	3	2	4	3	1	1	3	1	4	1	6	31
女	2	0	1	3	4	1	1	4	6	1	0	1	24
計	4	3	3	7	7	2	2	7	7	5	1	7	55

相談内容

(単位：件)

相談内容	上半期	下半期	計
話を聴いて欲しい	21	27	48
回答がほしい	2	2	4
教えてほしい	5	4	9
調査してほしい	1	0	1
改めてほしい	0	0	0
相談内容カテゴリー	上半期	下半期	計
対人関係について (同室者・居室替え等)	13	4	17
意見・要望・苦情について	13	12	25
家族について (面会や連絡等)	6	2	8
作業・支援・行事について	0	2	2
金銭(小遣い)について	1	1	2
食事に関する事	3	1	4
地域・施設移行について(将来について)	1	8	9
健康・医療について	2	4	6
買い物について	0	0	0
計	39	34	73

(3) 医療相談

相談受付は4件であった。内容は、持病について、内服薬の説明、肥満、腰痛ベルトの着用についての相談であり、担当職員と一緒に資料を参考にしながら説明を行った。受付以外にも、イレウス予防のための排便コントロール、水分摂取量、食事やおやつ、嗜好品、喫煙についての相談も随時対応した。

今後も健康診断結果等を検証しながら、随時実施していきたい。

(4) 栄養相談

希望献立については、利用者の思いも聞き取り、出来る範囲内で早めに献立に反映した。特に特別献立で希望される場合は、該当する利用者の意見を反映出来るよう調整することをお伝えした。

調理作業に関わる意見には、調理員と喜ばれる給食を目指し改善を話し合った。利用者の嗜好に対して提供が困難な内容には、集団生活で大量調理の難しさを丁寧に説明し、理解を求めた。

食事制限のある方の要望に対し、思いに寄り添いながら、日常生活でも工夫出来ないか他職種と連携し、利用者の不安を減らすよう努めた。

(5) リハビリテーション

毎週土曜日（AM9:00～11:00）に利用者の機能回復・維持を目的として、PTによる訓練を受けた。感染症に伴う対応やその他PTの都合により予定していた日時に実施出来なかったリハビリについては、別日に変更しリハビリを行った。

①理学療法では、病院からのPTの個別処方を基に、主に高齢・重度の方達を対象とし、残存機能の維持増進を図った。

②作業療法では、病院からのOTの個別処方を取り入れ、精神の安定と意欲の向上を図った。

開催日及び参加者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数	5	4	4	5	3	5	3	4	3	4	7	6
人数(P T)	58	46	43	55	32	62	35	48	37	50	74	59
人数(O T)	5	4	4	5	3	5	3	4	3	4	7	6

(6) 外出支援

新型コロナウイルス感染症対策が5類になり、マスクや消毒等基本的な感染対策はとり、平日の午後にバス外出・図書館外出を行った。またバス利用が困難な方は、各寮で個別に職員付き添いで外出支援を行った。

担当職員が利用者から聞き取りを行い、嗜好品等の買い物の代行にも対応した。

バス外出・図書館外出参加者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
バス外出	42	38	38	34	30	33	35	33	43	39	42	31
図書館	31	24	31	24	18	29	22	25	28	26	22	34
自転車	8	6	13	11	11	26	16	23	0	0	0	15

(7) 一斉作業

実施状況

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、社会奉仕（下舌・右近次郎神社掃除）は中止した。ワックスがけを中心に職員が行ったが、定期的なワックスがけは出来なかった。

実施日及び実施内容

実施日	内 容
5/16（火）	こぶしホールのみワックスがけ
5/24（水）	食堂汚れ落とし
6/7（水）	男子上下とスロープワックスがけ・エアコン掃除・網戸修理
6/14（水）	事務所から食堂まで廊下、汚れ落とし
6/22（木）	女子寮上と渡り廊下ワックスがけ
6/30（金）	害虫駆除 食堂前からスロープまでワックスがけ
10/4（水）	男子上、女子上、けやき寮畳上げ大掃除・通風孔掃除
11月1カ月かけて	雪囲い
12/25（月）～27（水）	年末大掃除 28日は粗大ごみをゴミステーションへ
2/22（木）	けやき寮ワックスがけ
3月後半～末まで	雪囲い外し

(8) 全体集会

今年度から新型コロナウイルス感染症が5類になり、以前のように毎月初めに体育館にて、誕生者の紹介、嘱託医の往診日の連絡、栄養指導日、特別献立等、月の予定を連絡の他、看護師、栄養士から施設での生活で、気を付けて欲しい事等の連絡を行った。

【5】自治会（がんばろう会）

自治会活動は主に喫茶運営を週3回（月、木、土）実施した。感染症予防の為に各棟に分けて喫茶運営を行い、ソーシャルディスタンスを心掛け、実施した。

その他の自治会活動では、年末のDVD鑑賞とカラオケ大会を開催した。

自治会役員会実施日 R 5.4月3日・28日、6月19日、11月10日

R 6.1月15日、2月5日 計6回

【6】一時入所事業

受け入れ実績

利用状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

新規利用者	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	男	0	0	0	0	1	1	1	0	0	2	2	1	8
	女	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	0	1	0	1	1	1	0	0	2	2	1	9

	氏名	性別	期 間	実施機関	利用理由	利用後の行先
1	A	女性	6月19日～7月18日	敦賀市福祉事務所	住居火災	入所
2	B	男性	8月8日～8月22日	坂井市福祉事務所	車上生活	アパート
3	C	男性	9月1日～9月6日	二州健康福祉センター	自宅老朽化	県外（就労）
4	D	男性	10月30日～11月15日	坂井市福祉事務所	退院	アパート
5	E	男性	1月4日～1月31日	大野市福祉事務所	生活困難	入所
6	F	男性	1月31日～2月29日	丹南健康福祉センター	自宅老朽化	自宅
7	G	男性	2月15日～2月29日	丹南健康福祉センター	退院	入所
8	H	男性	2月15日～2月29日	丹南健康福祉センター	退院	入所
9	I	男性	3月29日～4月26日	敦賀市福祉事務所	住宅取壊	不明

〈利用状況〉

今年度の利用者数は9人（男性8人、女性1人）であり、利用理由は体験利用からの入所、住居退去後の住まいが見つからない、自宅の老朽化で住めない等であった。

【7】居宅生活訓練事業

（1）利用者状況

①年齢構成（延べ人数）

区分	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	合計
男性	0	0	2	1	3

②障害の状況（延べ人数）

障害の区分	精神障害	身体障害	知的障害	障害なし	合計
男性	0	1	1	1	3

（2）専門員ミーティング

毎月1回専門員のミーティングを行い、利用者の状況や生活面での課題等について話し合った。普段の様子など職員の目が行き届きにくい所の情報を専門員から報告してもらうことで、情報共有する事が出来るようにし、支援の向上に努めた。また生活面での不都合な点や不安な事など、利用者からの声を上げてもらう事で、少しでも生活の質が向上するように努めた。

(3) 経過

今年度も男性利用者3人が事業を利用した。令和6年3月にH氏(64歳)が越前市のグループホームへ移行することが出来た。H氏は地域移行支援を利用し、各関係機関(福祉事務所、相談支援事業所、社会福祉協議会、就労継続B型作業所など)と連携を取りながら地域移行を進めた。

【8】緊急一時宿泊事業

受け入れ実績

	氏名	性別	利用期間	利用理由	利用後
1	A	男性	8月5日～8月8日	住居が雨漏りのため	自宅
2	B	女性	9月21日～10月5日	住居を出されたため	アパート
3	C	女性	11月21日～12月5日	金銭管理等	地元(県外)
4	D	男性	12月22日～1月5日	冬期に自宅で生活できない	自宅
5	E	女性	2月6日～2月17日	家族との関係	自宅

〈利用状況〉

5年度は5件の利用があった。男性の方で、住居の問題で夏期と冬期に利用された方があり、その後、自宅に戻られた。

Ⅳ障害者支援施設 むつみ園

【1】利用者状況

①市町別利用者（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

出身市町		利用者数			出身市町		利用者数			
		男	女	計			男	女	計	
県内 嶺北	福井市	4	2	6	県内 嶺南	敦賀市	0	1	1	
	大野市	7	4	11		おおい町	0	1	1	
	勝山市	2	1	3	県内合計			17	10	27
	鯖江市	2	0	2	岐阜県	郡上市	0	1	1	
	越前市	1	1	2	石川県	七尾市	0	1	1	
	永平寺町	1	0	1	県外合計			0	2	2
					総数			17	12	29

②年齢構成（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

区分	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	1	1	1	1	2	1	3	4	3	17	63.9歳
女	0	0	0	1	0	2	1	2	6	12	74.3歳
計	1	1	1	2	2	3	4	6	9	29	68.2歳
%	3.4	3.4	3.4	6.9	6.9	10.3	13.8	20.7	31.0	100	

（備考）最年少34歳、最高齢89歳

③障害の状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他	障害なし	合計
				身体的	身体精神	知的精神	身体的精神			
男	0	12	2	2	0	1	0	0	0	17
女	0	7	2	3	0	0	0	0	0	12
小計	0	19	4	5	0	1	0	0	0	29
%	0	65.5	13.8	17.2	0	3.5	0	0	0	100

④在籍年数（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

区分	1年未満	1～2	3～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25年以上	計	平均年数
男	0	2	0	4	1	4	1	5	17	21年2ヶ月
女	1	0	0	3	0	2	1	5	12	26年4ヶ月
計	0	2	0	7	1	6	2	10	29	23年4ヶ月
%	3.45	6.9	0.0	24.1	3.45	20.7	6.9	34.5	100	

（備考）最長在籍者（昭和52年4月入所）47年

【2】個別支援計画

(1) 個別支援計画の徹底と充実

本人の希望・要望を踏まえ、その人らしくどう生きていくかという思いを支援するプランやケアを大切に、生活行為や生活意欲を引き出すような支援計画の作成を継続して行った。個別支援計画の支援内容や日常における支援の変更については、その都度『対応表』を作成し回覧、支援員全員が情報を共有できるようにした。

高齢化により介護を必要とする利用者も増えている。そのため、健康面に配慮した支援を取り入れたり、入院面会の支援も多くなった。また、新型コロナウイルス感染症は5類となり、利用者の楽しみでもある外出支援の機会もできるだけ増えるようにしたが、その際の感染防止対策も同時に行った。

個別懇談会は、対面・郵送に加えて、今年度もZOOMでの懇談会を取り入れたが、ご家族が高齢・遠方であることで、ほとんどは郵送となった。

個別懇談会の状況

(単位：件数)

個別懇談会	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
保護者の出席 リモート含む	0	1	1	2	0	1	1	1	2	2	1	1
郵送	5	6	6	3	5	2	6	5	4	3	3	1
計	5	7	7	5	5	3	7	6	6	5	4	2

成年後見制度利用者数	補助人	保佐人	後见人
計	1	0	1

(2) ケア会議の充実

サービス等利用計画との整合性が図れるよう、サービス管理責任者がケア会議の年間計画を立てて開催した。

急な業務の変更などでケア会議の開催が出来ず、後日、ケース担当者・各寮リーダー・(強度行動障害支援担当者) サービス管理責任者で開催することもあったが、各寮支援員の意見も反映されるよう、昨年と同じく出席できない支援員には意見を提出してもらった。

利用者は、体調不良や欠席の意思を示した方を除いてケア会議に出席してもらい、会議の中でも利用者自身が思いを自ら話せるようサポートしながら、また、会議中の本人を感じ様子を観察しながら個別支援計画の確認を行った。

【3】施設入所支援事業

入所利用者に対して、排泄・食事などの介護や生活に関する相談など、日常生活における居住支援を実施した。

定員40名のところ年度当初は 31名だったが、令和5年5月に女性(86歳)1名が死亡、令和5年11月に男性(61歳)1名が死亡、3月に能登地震被災者の女性(72歳)1名が入所、男性1名(89歳)1名が死亡し、年度末には29名となった。

高齢化が著しく、特に夜間や職員数が少ない休日に転倒事故が増えている。新型コロナ

ウイルス流行による行動制限の影響からの機能低下もあると思われる。転倒の危険性などを考慮して個別にマットレスのみで対応している利用者やベッド下にマットレスや離床センサーを使用している利用者もいる。車いすや歩行器（シルバーカー）を使用する利用者も多く、車いす同士や他利用者と接触するなどの危険がないよう配慮が必要となっている。

行動障害の方への支援では、統一した支援及び本人にあった適切な支援の提供のため、支援手順書を作成し支援した。本人の精神状態の変化にあわせて、担当者のミーティングにて支援手順書の見直しを行い、利用者が落ち着いて過ごせるよう支援を変更した。変更点についても職員間で周知できるよう朝礼等で随時、説明した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、小学校との交流行事やスポーツ大会への参加、観光バスでの日帰り旅行やバスドライブの実施、面会や外出も感染対策を講じながら実施した。施設内の感染対策もかなり緩和し、自治会行事等は男女一緒に行っているが、高齢者が多いことから感染リスクを考慮し、ミュージックケアやレクリエーション等の活動は男女別で行い、食事も寮ごとのグループに分けて実施した。

【4】生活介護事業

（1）入浴の支援

同性介助を基本とし週3回実施した。

《男性》月水金 《女性》火木金

個々に応じて、部分介助や全介助で入浴した。耳栓を使用したり、浴槽に浸かる時に椅子を使用するなど、それぞれの利用者に合った対応をした。また、高齢や身体状況から週3回の入浴が難しく、かつ十分な見守りが必要な利用者に関しては、心身の状況に応じた支援や介助が必要となっている。そのような利用者については、看護師と連携し体調や健康面に配慮して入浴を行った。浴室での転倒事故が多く、安全で快適な入浴を目指して、入浴支援の一覧表を作成した。今後も利用者の状態にあわせ更新していく。また、浴槽に浸かる際に浴槽内で背中を擦る怪我があり、予防策としてその個所にシートを貼った。

また、スロープがないことで、浴槽に浸かれない利用者には、大野荘の機械浴を、2名の利用者が2回利用した。

（2）食事の支援

食事介助は、年齢や障害を考慮した上で、個々に合った自助食器の使用、咀嚼・嚥下困難者に対しては荒・中・極の刻み食・ミキサー食を提供した。刻んでも食材により口腔内でバラけるため、餡をかけることで食材をまとまりやすく、容易に嚥下できるよう努めた。また、むせやすく誤嚥性肺炎の危険性がある利用者には、トロミ剤を使用した。咀嚼不良・食塊形成不全・送り込み不良・嚥下反射遅延には食事の所要時間、量、形態、環境、支援方法を検討し、職員間での情報共有、支援の統一を図り、嚥下状況を見ながら支援した。また、現在の食事形態では摂取困難な利用者1名はソフト食(自己負担)を提供した。

(3) 排泄の支援

排泄介助は、必ず見守りができ、危険時にすぐに対応できることを基本とし、出来る限りトイレで排泄ができるように支援している。居室でポータブルトイレを使用する場合であっても、必ずカーテンを使用するなど、プライバシーへの配慮を怠ることなく、また、清潔で快適な環境であることも常に意識し介助にあたった。

	男	女	計
ポータブルトイレの使用者	1	3	4
夜間の紙オムツ・紙パンツ等の使用者	1	0	1
昼・夜紙オムツ・紙パンツ等の使用者	8	6	14
定時排泄誘導介助・声かけ介助者	6	5	11

* 導尿カテーテル（尿パック）使用者 4名（男性2名、女性2名）

(4) 口腔ケア

昼食後に歯磨き支援を実施した。利用者が自分で磨き難い箇所は職員が仕上げ磨きを行った。また、週1回は看護師が歯石や歯茎の状態を確認し、必要時は歯科との連携を図った。ベッド静養中心の利用者は口腔スポンジや口腔シートまたはジェルを使用し、清潔を保てるように支援した。

(5) 日中活動

個別支援は、朝礼・体操の後、1人でも多く個別支援にあたるよう努めた。

日中活動は、それぞれの担当者が、計画的に準備・活動するようにした。

- ①歩行（散歩）…季節や天候に応じて、施設内外の歩行を行った。
- ②外出支援…コロナウィルスの感染状況をみながら、感染対策を徹底し、少人数での買い物外出やドライブ外出を事前に立案した計画に基づき実施した。また、個々のニーズに合わせ個別外出も実施した。
- ③理美容…男性は4名の理容師に来園して頂き毎月実施した。1名の利用者は個別支援で理髪店を利用したり、自宅への外出時に馴染みの店を利用した。
女性は年6回、大野市の美容協会の美容師に来園して頂き実施した。2名の利用者は個別支援で定期的に市内の美容室を利用した。
- ④創作活動・生産活動…曜日は決めなかったが、月3回程度行った。季節のぬり絵や壁面づくり、自由画などが出来るよう準備し、希望のある利用者にはマット編みができるように準備をした。活動を通して、市の文化祭・きらりアート展・アールブリュット展等への出展を支援し、社会参加を図った。
- ⑤レクリエーション…男女に分かれて、紙球を投げるゲームや体操、輪投げ、ボーリング、魚釣り、DVDやiPadを活用して体操などを行った。
- ⑥ミュージックケア…月1回程度、男女に分かれて実施した。音楽の特性を活かし小さな楽器を使用しながら、体を動かして情緒の安定や集団活動への参加促進を図り、リラクゼーション効果をあげる音楽療法を行った。
- ⑦カラオケ…土曜日の午前中に、4つのグループに分け男女別で小人数で実施した。各

自が好きな曲や歌いたい曲を自ら選曲し、自分の十八番の披露や歌に合わせて体を動かすなど、思い思いに楽しむことのできる活動となっている。また、歌うことが苦手な利用者は、他利用者の歌っている歌を聴いて楽しむなど、それぞれに楽しい時間を過ごすことができている。感染対策としてマスクを着用して行い、換気と消毒を徹底した。

○活動の実施状況

月	① 歩行	② 外出支援	③ 理美容	④ 創作活動	⑤ レクリエーション	⑥ ミュージックケア	⑦ カラオケ
4月	4.5.6.20 21.26.28日	買物10.11.13.14.18. 19.20.21.24.25.27日 ドライブ17日 個別外出26日	3.24日	6.13.17日	5.26日	10.19日	1.8.15.22. 29日
5月	11.12.31日	買物8.10.11.15. 16.17.18.23.24.26日 代行10日	1日	18.31日	24日	22日	13.20.27日
6月	6.19.20.21. 28.29日	買物5.6.8.12.19. 20.22.26.28.30日	5.12日	8.21.28日	19.29日	7日	3.10.17. 24日
7月		買物13.19.20.21. 25.26.27.28日 代行18.25日 個別外出26日	3日	5.19.31日	6日	12日	1.8.15. 29日
8月		買物7.17.18.24. 25.28.30日 代行8日 個別外出14日	7.21日	9.17日		10.16.24 日	5.12.26日
9月	18.19日	買物7.12.14. 19.21.25.29日 代行7日	25日	14.21日	27日	11.28日	2.9.16.23. 30日
10月	4.11.23.24. 31日	買物2.5.6.11.13.17. 19.24.25.27日 個別外出25日	2.23日	5.11.12.25 日	4日	10.19日	7.14.21. 28日
11月	9.27日	買物17.20.22.24. 27日 代行17.28日 個別外出30日	20日	1.10.15.16 日	9日	30日	4.11.18.25 日
12月	8日		11.18日			7.20日	2.9.16.23. 30日
1月		代行9.15.16. 25.26日	22日	11.17日	10.31日	18.29日	6.13.20. 27日
2月		代行8.13.15.19. 22.27日 個別外出21日	12.19日	21.26.28日	29日	22日	3.10.17. 24日
3月		代行7.12.19.25日 個別外出22日	25日	20.26日	7.14日	6.11.28日	2.9.16.23. 30日
合計	26回	98回	18回	30回	14回	21回	51回

【5】短期入所事業

利用状況（令和5年4月～令和6年3月）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用人数	2	2	2	2	2	2	3	5	3	4	3	4
利用日数	8	9	10	12	11	11	12	15	13	12	12	12

今年度の利用は男性1名、女性4名を受け入れた。利用状況としては、毎週定期的な利用により家庭を離れ自立した生活への支援、週末の利用による家族のレスパイト、家族の都合による突発的な利用や、友人と一緒にサービスを利用したい等、個々の状況や要望に応じ、体制を整えながら受入れを行ってきた。

施設入所の利用者の高齢化が著しく介護や支援の量が増大する中、強度行動障害など障害特性の多様な短期入所の利用者を受入れ支援していくことは（人的にも環境的にも）容易ではないが、今後も出来る限り地域の福祉ニーズに応えられるよう努めたい。

【6】日中一時支援事業

利用状況（令和5年4月～令和6年3月）

利用月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用人数	2	1	1	3	2	1	1	1	2	2	1	2
利用日数	17	19	22	17	8	20	20	19	17	12	18	15

放課後の利用は、奥越特別支援学校中学部の女子生徒1名が利用、長期休暇のみの利用は市内小学校女児1名、奥越特別支援学校中学部の男子生徒1名が利用されており、計3名の受入れを行った。男子生徒は特性から同性の職員がマンツーマンで対応するなど、利用者に合わせて支援員を配置した。

ご家族（地域）からのニーズはあり、支援員の配置が確保されれば今後も受け入れを行っていく。

【7】全体活動

（1）生活相談

意見を聴取する機会として①朝礼②寮ごとの活動時やミーティング時③自治会活動時における話し合い④その場で言えない利用者は希望に応じて個別に対応した。

また、必要に応じて施設長やサービス管理責任者による相談も実施した。

意見等の聴取は、利用者の意見等が個別支援計画や行事企画に反映できるよう心掛け、対応時に留意すべきことに則り行った。

（2）自治会活動（うぐいす会）

年度当初には総会を開き、「自らの手で、より快適で潤いある生活の実現を目指す」を目標に自治会活動を支援した。

(自治会行事)

実施日	活動内容	正会員 (利用者数)	準会員 (職員数)
5月30日	端午の節句	会員全員	20
6月21日	自治会総会	会員全員	11
7月4日	七夕	会員全員	21
9月19日	希望外出 (よもやま)	よもやま会員全員	6
9月28日	敬老会	会員全員	19
11月20日	希望外出 (8番らーめん)	むつみ園会員3名	3
11月21日	希望外出 (8番らーめん)	むつみ園会員2名	2
11月22日	希望外出 (8番らーめん)	むつみ園会員2名	2
11月24日	希望外出 (てっぱん)	むつみ園会員2名	2
11月28日	希望外出 (江戸文)	むつみ園会員2名	1
11月29日	希望外出 (ふくみ)	むつみ園会員3名	2
12月17日	希望外出 (カラオケ)	むつみ園会員2名	2
12月19日	クリスマス会	会員全員	19
12月28日	リフレッシュタイム・よもやま	よもやま会員全員	5
1月18日	希望外出 (テイクアウト)	むつみ園会員3名	1
1月19日	希望外出 (テイクアウト)	むつみ園会員2名	2
1月24日	希望外出 (テイクアウト)	むつみ園会員1名	1
2月1日	節分	会員全員	20
3月5日	ひなまつり	会員全員	20

※自治会喫茶時のおやつは自治会員の希望を取り入れ購入した。

1月1日、2日、3日は、自治会よりおやつを提供した。

自治会集会 自治会役員会 施設管理者との懇談会

実施日	議題	正会員 (利用者数)	準会員 (職員数)
4月3日	4月の予定 自治会喫茶の在り方について	23	7
5月25日	5月の予定 生活に関する意見など	23	7
5月29日 (役員会)	端午の節句について カラオケのグループ分けについて 総会について	4	3
6月1日	6月の予定 新しい職員の紹介 喫茶のおやつについて	25	8

6月24日 (役員会)	七夕について 新しい職員について	4	2
7月4日	7月の予定 生活に関する意見など	24	9
8月2日	8月の予定 花火大会のお知らせ 希望外出について 生活に関する意見など	25	5
9月5日 (役員会)	敬老会について 希望外出について	4	3
9月5日	9月の予定 訓練棟の雑誌について 希望外出について その他	25	7
10月3日	10月の予定 希望外出について クリスマス会について その他	24	6
11月11日	11月の予定 希望外出について クリスマス会について その他	19	6
12月6日	12月の予定 保健指導 冬季の買い物について お正月のおやつについて その他	21	6
12月12日 (役員会)	クリスマス会について 正月のおやつについて	4	3
12月25日 (管理者懇談会)	今後施設でやって欲しい事、やり たい事	4	3
1月9日	1月の予定 生活に関する意見など おやつ選挙について その他	19	6
1月25日 (役員会)	節分について おやつ選挙について	4	1
2月6日 (役員会)	能登半島地震義援金について ひなまつりについて おやつ選挙について	4	2

2月6日	2月の予定について 能登半島地震義援金について ひなまつりについて おやつ選挙について その他	22	7
3月5日	3月の予定 おやつ選挙について 来年度の自治会役員について その他	21	9

(3) 外出支援

①自由外出支援

- ・個人で買い物や理美容を目的とした外出に出る方はおらず、職員付き添いでの外出を実施した。
- ・農道など園周辺の散歩に個人で出る方は数名（男性）おり、夏季は熱中症対策の為、クーリンググッズや飲み物を準備した。冬季は園内を歩行してもらった。
- ・精神的不調から外出のルールを守らずに外出してしまう利用者がいた。

②要支援外出

- ・個別支援計画に基づいた個別外出を実施した。
(墓参り、映画鑑賞、ドライブ、喫茶)
- ・毎月、各寮で買い物外出計画を立てて人数や利用者の体力等、考慮しながら外出を行った。買い物に行けない利用者には、欲しい物を聞き取り職員が買い物代行を実施した。冬季間は感染症が流行した為、買い物代行のみ実施した。

(4) 一斉作業

①実施日及び実施内容

実施日	内 容
4/12 (水)	外窓高圧洗浄機、居室エアコンフィルター洗浄、車いす点検
6/15 (木)	エアコンフィルター洗浄
6/23 (金)	害虫駆除、高架漕点検
7/27 (木)	医務室前スロープ、男子洗面所床洗浄・脱衣場
9/6 (金)	男子寮、女子寮居室、ベッド下等の掃除
9/26 (火)	全館エアコンフィルター掃除、通風溝掃除
11月下旬～12月	天候を見ながら雪囲い（一部よもやまに依頼）
12/4.6.13.14.21	大掃除（トイレのカーテン、第二倉庫、宿直室、各居室のエアコン吹き出し口、居室、トイレ等）
1/15 (月)	支援員室・各利用者のカーテンの洗濯・居室掃除
12/26 (月) 27 (火)	男子棟・女子棟居室掃除・車いす点検 ※雪囲いは11月後半から12月上旬の間に実施した。

2/7 (水)	トイレ掃除・各居室の掃除
3月中	※天候を見ながら雪囲い外しを行った。

業務委託作業 (メンテナンス中村)

7/24 (月)	管理棟・食堂ワックスがけ
8/29 (火)	あかね浴室前廊下床はく離+ワックスがけ
10/30 (月)	女子棟共用通路ワックスがけ、訓練棟ワックス
12/6 (月)	男子共用通路 床はく離ワックス、あかね階段 床はく離ワックス
3/28 (木)	食堂ワックスがけ

※ 1週間に一度は浴室掃除実施 ※洗面所、洗濯場掃除適時

※ 寝具干し及び布団乾燥機による寝具乾燥

※ 居室エアコン、扇風機掃除や年末大掃除については、適時行った。

※ 乾燥機ダクトフィルター掃除随時

V 障害福祉サービス事業所 よもやま

【1】利用者の状況

①出身市町（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

出身市町		男	女	合計
福井県	鯖江市	0	1	1
	越前市	1	0	1
	坂井市	1	0	1
	福井市	4	1	5
	敦賀市	1	0	1
	大野市	4	0	4
	勝山市	0	2	2
	永平寺町	0	1	1
合計		11	5	16

②新規利用・利用終了状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

令和5年度	
新規利用	0
利用終了	1

③年齢構成（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

	19歳以下	20～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65～69	70歳以上	合計	平均年齢
男	0	1	0	1	2	1	1	5	11	60.0
女	0	0	0	0	2	1	2	0	5	58.2
計	0	1	0	1	4	2	3	5	16	59.4
%	0	6.25	0	6.25	25	12.5	18.75	31.25	100	

④障害の状況（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

障害の区分	身体障害	知的障害	精神障害	重複障害				その他 病弱者 生活障害	障害なし	合計
				身体的	身体精神	知的精神	身体的精神			
男	0	6	2	0	0	3	0	0	0	11
女	0	2	2	0	0	1	0	0	0	5
小計	0	8	4	0	0	4	0	0	0	16
%	0	50.0	25	0	0	25	0	0	0	100

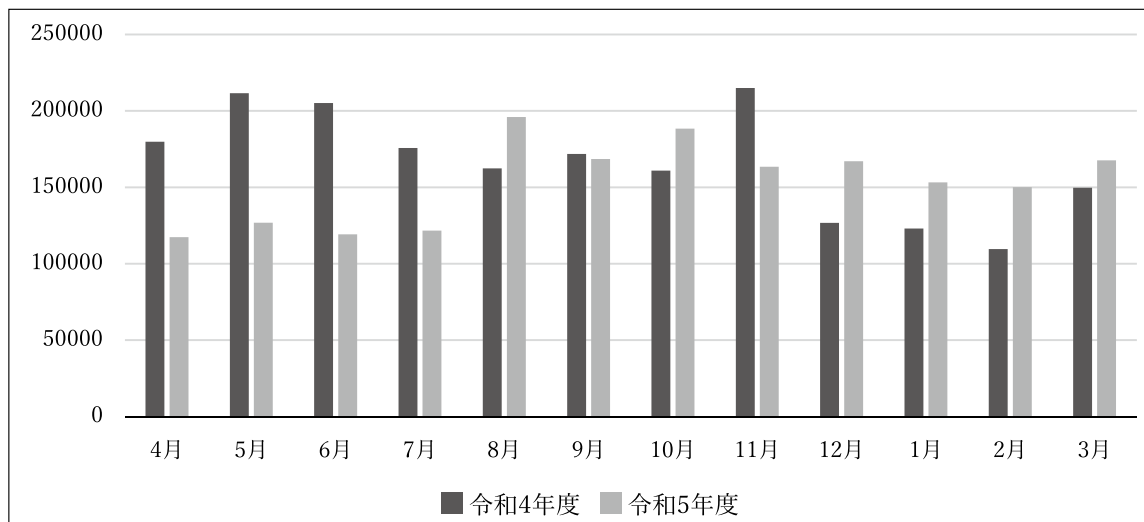
【2】就労継続支援B型事業

(1) リサイクル作業 [収益 1,839,030円、前年度対比 151,922円の減]

今年度は、アルミ缶（現在単価165円）8,805kg、スチール缶（現在単価20円）10,680kg、ペットボトル（現在単価10円）27,691kgを回収した。

(リサイクル作業収益比較表)

(単位：円)



(2) 食品加工 [収益 1,780,167円、前年度対比 142,686円の減]

① ポン菓子 [収益 1,387,267円、前年度対比165,586円の減]

福井県セルプ・かじ惣・杉本清味堂・結楽座・いとよの里・かどの商店への納品と委託販売を行っている。

② 甘栗 [収益 281,500円、前年度対比13,500円の増]

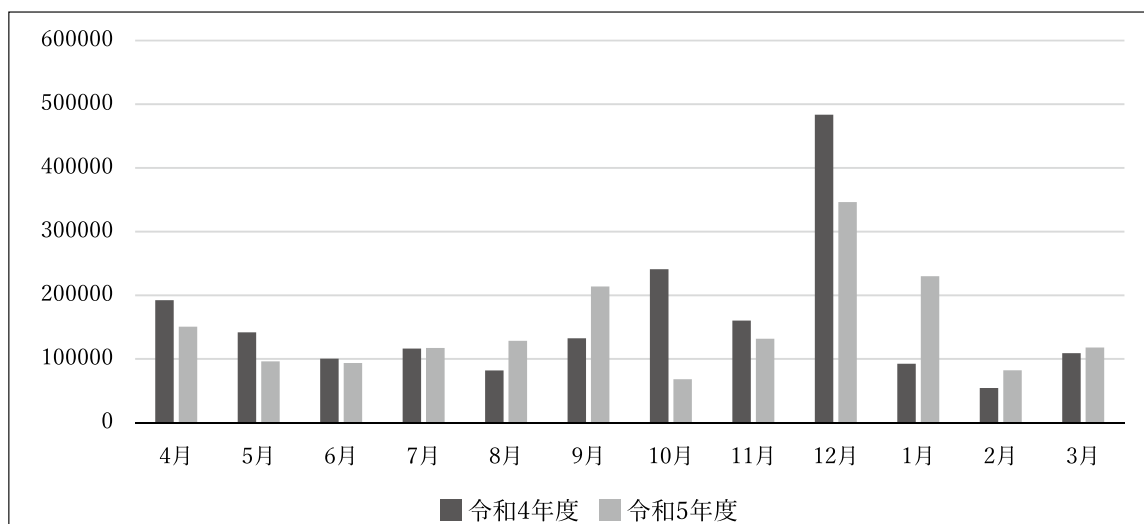
12月上旬より製造に取り掛かり、注文販売や年末にVIOにて実演販売を実施した。

③ 梅干 [収益 111,400円、前年度対比 9,460円の増]

注文販売とイベント販売を行った。今年度は保管場所を変更した。

(食品加工収益比較表)

(単位：円)



(3) 下請け [収益 2,305,545円、前年度対比 761,461円の減]

① プラスチック関係 [収益 1,597,039円、前年度対比 531,881円の減]

内訳：三興プラテック（お茶内職）

酒井プラスチック（バリ取りと検品）

高須商事（スポイドのカット、バリ取り、検品）

中野化成（プラスチック組み立て、パッキン入れ）
 服部ブロー（フィルム入れ、スポイドのカットバリ取り、検品）
 本間金型製作所（お茶容器の袋詰め・プラスチック検品）

② ニチコン [収益 207,469円、前年度対比 28,799円の増]

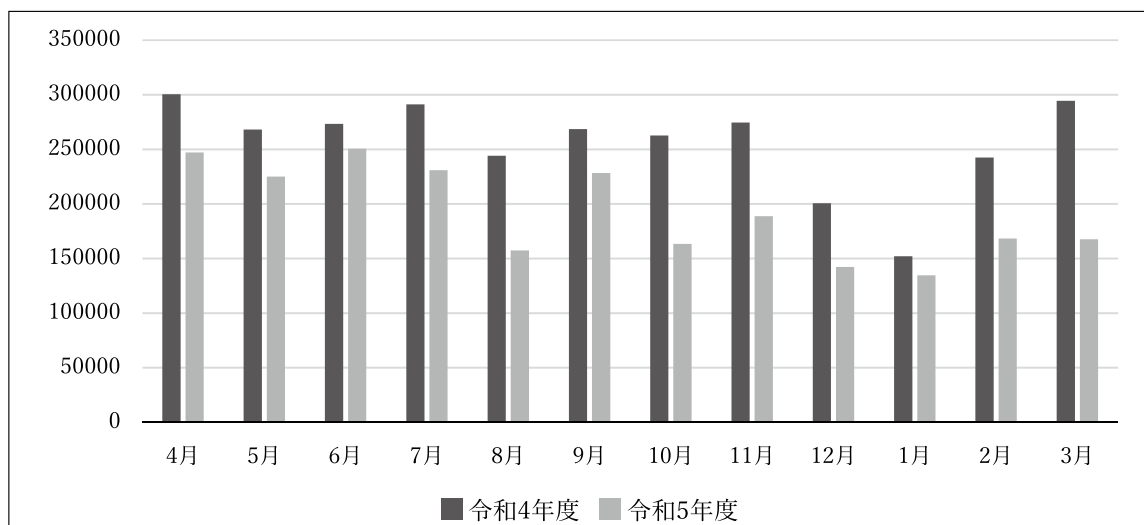
アルミ電解コンデンサ外観不良検査

③ その他 [収益 501,037円、前年度対比 258,373円の減]

大野市福祉課からの依頼で公共機関の清掃活動、白布などのクリーニング
 個人からの依頼で除草や伐採作業。
 法人内の施設での除草、清掃活動。

(下請け収益比較表)

(単位：円)



(4) 販売 [収益 3,319,343円、前年度対比 638,972円の減]

① 自動販売機 [売上1,957,917円 前年度対比 645,933円の減]

利用者1名の補助で毎週月曜日と木曜日を基本とし、両施設（大野荘・むつみ園）の自動販売機の補充と商品発注を行った。

② パン販売 [売上 465,146円、前年度対比 64,709円の増]

大野市役所

月2回（第2・第4木曜日）

大野福祉会

月2～3回（第1・第3・第5木曜日）

販売員として利用者1名参加し、接客等を行っている。

③ その他（果物、麺類、日本ハム販売等） [売上 896,280円 前年度対比 57,748円の減]

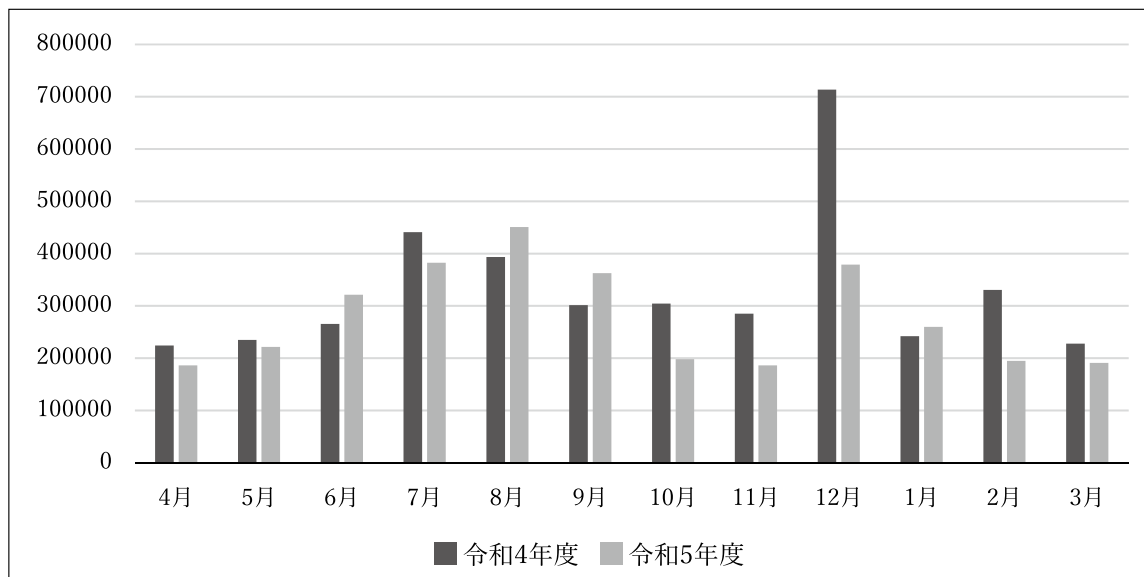
野村醤油のはまな味噌、内田製麺の生蕎麦や麺類、ピュアファームの果物、日本ハムの注文販売を行った。

④ よもやまマルシェ

よもやまマルシェとしては開催しなかった。年末にViOにて甘栗の実演販売とよもやま製品の販売を行った。5年度は農耕班の活動が無い為、野菜等の販売が出来なかった。

(販売収益比較表)

(単位：円)



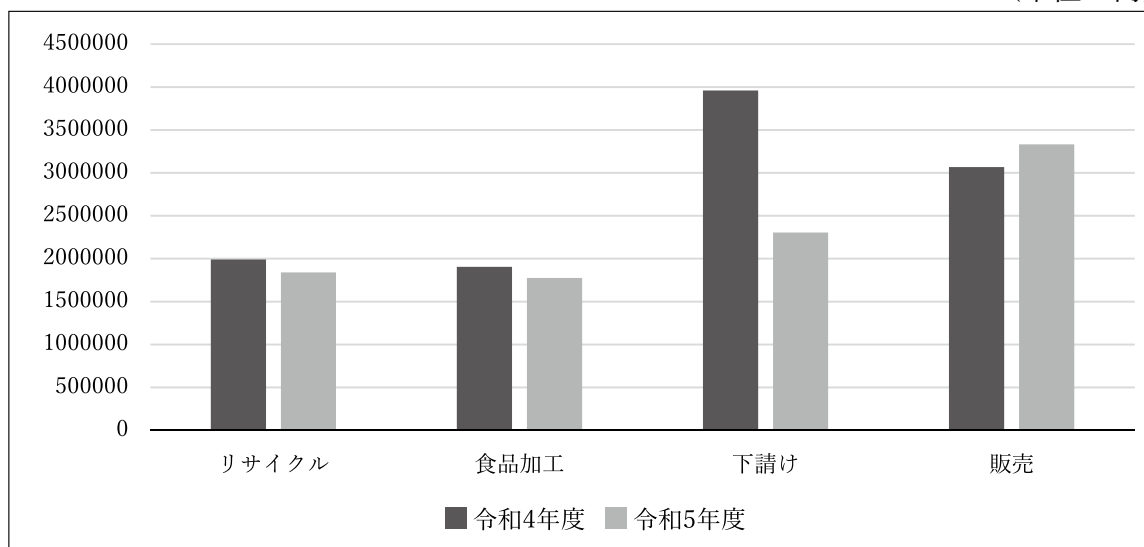
(5) 参加イベント

4月	七間楽市	10月	七間楽市・小山まつり
5月		11月	七間楽市・就労センター研究協議会「福井大会」
6月		12月	年末販売会（甘栗実演）
7月	七間楽市・富田福祉のつどい	1月	
8月	上庄小学校実演・上庄夏祭り	2月	
9月	福井矯正展・セルプ対面販売会（大野市役所）	3月	七間楽市

DM販売（通年）

(6) 事業種別売上表

(単位：円)



(単位：円)

	令和4年度	令和5年度
リサイクル	1,990,952	1,839,030
食品加工	1,922,853	1,780,167
下請け	3,958,315	2,305,545
販売	3,067,006	3,319,343
計	10,939,126	9,244,085

(7) 作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	令和4年度	令和5年度
4月	431,760	403,075
5月	421,260	380,305
6月	456,980	355,960
7月	413,600	362,520
8月	376,820	385,950
9月	358,220	346,890
10月	371,320	333,750
11月	394,225	344,450
12月	396,625	342,440
1月	250,820	356,740
2月	419,760	359,340
3月	555,010	370,790
計	4,846,400	4,342,210

(8) 作業工賃年度別比較表

(単位：円)

	総支払額	平均月額	平均時給額
令和4年度	4,846,400	23,412	237.1
令和5年度	4,342,210	28,492	242.5

【3】全体活動

- (1) 環境整備 溝掃除、除草は随時実施。作業室清掃は毎日行い、土曜日(月2回)は朝礼後に館内清掃を実施。害虫・ねずみ駆除を業者委託で実施(年2回)
- (2) レクリエーション活動 年間4回 DVD鑑賞を実施
- (3) その他 慰労会 年間2回実施(9月19日、3月19日)
自治会活動(9月19日、3月19日)
防災訓練 年1回実施
感染症対策訓練(11月17日)
他施設見学 就労継続支援B型ピアファーム(9月19日)

Ⅵ共同生活援助事業（グループホーム）

【1】利用者状況

①出身市町別利用者（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

県内	出身市町	利用者数			県外	出身市町	利用者数			
		男	女	計			男	女	計	
福井県	福井市	4	2	6	岐阜県	土岐市	0	1	1	
	あわら市	0	1	1	県外合計			0	1	1
	坂井市	1	0	1	総計			10	9	19
	勝山市	0	3	3						
	大野市	2	0	1						
	鯖江市	0	1	1						
	越前市	1	0	1						
	敦賀市	1	0	1						
	永平寺町	0	1	1						
若狭町	1	0	1							
県内合計		10	8	18						

②年齢構成（単位：人）

（令和6年3月31日現在）

区分	～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	合計	平均年齢
男	0	0	1	1	1	1	1	3	2	10	65.4歳
女	0	0	0	2	1	1	2	0	3	9	65.8歳
計	0	0	1	3	2	2	3	3	5	19	65.6歳
%	0.0%	0.0%	5.3%	15.8%	10.5%	10.5%	15.8%	15.8%	26.3%	100.0%	

③障害の状況（単位：人）（令和6年3月31日現在）

障害の区分	知的障害のみ	精神障害のみ	重複障害	合計
			知的精神	
男	8	2	0	10
女	5	3	1	9
計	13	5	1	19
%	68.4%	26.3%	5.3%	100.0%

④日中活動サービスの利用状況

(令和6年3月31日現在)

GH1 (ひまわり・かささぎ)					
	年齢	日中活動先		年齢	日中活動先
い	47	就労継続B型(よもやま)	へ	53	就労継続B型(よもやま)
ろ	52	就労継続B型(よもやま)	と	59	就労継続B型(よもやま)
は	56	就労継続B型(よもやま)	ち	88	社会生活訓練実習(大野荘)
に	65	就労継続B型(よもやま)	り	79	生活介護(つぐみ福祉会)
ほ	74	就労継続B型(よもやま)			

GH2 (たんぼぼ・うぐいす)					
	年齢	日中活動先		年齢	日中活動先
ぬ	62	就労継続B型(よもやま)	よ	54	障害者雇用(むつみ園)
る	71	就労継続B型(よもやま)	た	63	就労継続B型(よもやま)
を	74	就労継続B型(よもやま)	れ	66	就労継続B型(よもやま)
わ	75	就労継続B型(よもやま)	そ	67	就労継続B型(よもやま)
か	79	就労継続B型(あすなろ) 通所介護(さくらの家)	つ	75	障害者雇用(大野荘)

利用者様が年齢を重ねられ、年々、具体的な生活支援を要する場面が増えている。通院時の送迎に受診時付き添い、入浴支援に、部屋の掃除や私物の整理に洗濯、買い物などの外出支援と、利用者様個々に応じ支援の度合いに違いはあるが、お一人おひとりの地域生活を支える支援が増大している。

日中活動へも休みがちの方が増えており、利用者様の意向を尊重しつつも心身の状況の変化を捉えながら日中活動の見直しを検討している。また、高齢の方には、将来的な介護施設等へのスムーズな移行も視野に入れ、生活介護や介護保険サービスの利用を勧めている。

【2】世話人会の開催

毎月初めに世話人会を開催し、月毎の行事予定や連絡事項の伝達を行っている。

そのほか、感染症予防対策の周知徹底や、日頃の支援で悩んでいる事を共有し、それぞれのホームでの支援について意見交換する時間ともなっている。

また、「日頃の支援振り返りシート」を使用して、利用者様の尊厳を守る支援についての意識を高め、令和5年10月からは法人で導入されたスペシャルラーニングを活用し、毎回テーマを決め動画を視聴し意見交換を行い、虐待防止や人権擁護、障害者支援における情勢についての周知を行い、学びを深めている。

Ⅶ 地域支援課

研修企画

【1】派遣研修実績

大野荘

実施月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	人数	研修内容
4月	奥越地区障害者自立支援協議会相談支援専門員・サービス管理者等合同研修会	福井県（大野市）	相談員	1	サビ児管等士との意見交換、相談支援員同士の意見交換を行い、連携を考えるきっかけづくり
5月	ひきこもり支援関係機関職員研修会	福井県（オンライン研修）	相談員	1	回復への道筋の示し方
6月	福井県サービス管理責任者更新研修	福井県（オンライン研修）	係長	1	サービス管理責任者の質の確保に必要な知識・技能の養成を図る
	福井県内社会福祉法人連携事業推進協議会地域貢献セミナー	福井県（大野市）	係長	1	法人連携総会および地域貢献セミナー
7・8月	福祉職員キャリアパス対応生研修（初任者コース）	福井県 7月はオンラインで8月は福井市	支援員	1	福祉の基礎とチームの一員として働く役割を考え実践につなげる
	人権啓発講習会	福井県（オンライン研修）	施設長	1	日常の中の部落差別～差別をなくすのに必要な事～
8月	社会福祉法人経営セミナー	福井県（オンライン研修）	管理者課長	2	令和6年度から算定が義務化される業務継続計画（BCP）の算定へのポイントや算定したBCPの実行性を高める
	人権教育指導研修会	福井県（オンライン研修）	施設長	2	部落問題と向き合う私たち～結婚差別を乗り越えて～
	社会福祉法人経営セミナー	福井県（福井市）	課長	1	地域社会から信頼され期待に応え得る社会福祉法人として、コンプライアンスの重要性を再認識し、それらを遵守するための組織作りについて学ぶ
	ひきこもり支援関係機関職員研修会	福井県（オンライン研修）	相談員	1	各機関の紹介と支援の今後について、意見交換
9月	ミュージックケア研修会	福井県（福井市）	支援員	1	ミュージックケア講義
	家計改善支援事業従事者養成研修	全国社会福祉協議会（オンライン研修）	相談員	1	家計改善支援員養成研修
	大野市地域包括ケアネットワーク勉強会	福井県（オンライン研修）	看護師	2	在宅や施設における高齢者の救急対応を学ぶ
10月	老人・障がい者福祉施設給食担当職員研修会	福井県（オンライン研修）	栄養（係長）	1	災害時の状況下において利用者に安全安心な食事を提供できるよう、マニュアルや協力体制等について学ぶ

10月	高齢者・障害者虐待防止研修	福井県（越前市）	支援員	2	高齢者・障がい者虐待の理解利用者の尊重と権利擁護
	全国救護施設研究協議大会	全国救護施設協議会（山梨県甲府市）	理事長 施設長 課長 課長補佐	4	地域共存社会に向け、救護施設としての機能の広がりや可能性、存在意識の高まりを再確認する
	福井県サービス管理責任者基礎研修	福井県（福井市） （オンライン研修）	係長	1	サービスや支援の質の確保に必要な知識、技能を有するサービス管理責任者の養成を図る
11月	福祉サービス苦情解決機能強化セミナー	福井県 （オンライン研修）	施設長 管理者 課長	5	福祉サービス事業所における苦情解決機能等の向上を図る
	若者等支援機関地域ネットワーク意見交換会	福井県（大野市）	相談委	1	面談における心構え、注意点
	東海北陸社会就労センター研究協議会福井大会	福井県（福井市）	施設長 係長	2	共存社会の中で働く・暮らすを考える
	福祉・介護職員処遇改善加算取得促進セミナー	福井県 （オンライン研修）	施設長	1	処遇改善加算の基礎他
	ひきこもり・不登校学習会	福井県（福井市）	相談員	1	8050問題の原因と、親子共倒れにならないために今できることを学ぶ
11～12月	福井県障害者虐待防止・権利擁護研修	福井県 （オンライン研修）	支援員	1	障害者虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応、虐待発見後の適切な支援や関係機関の連携の強化を図る
	北陸地区地域支援部会・相談支援部会合同研修会	富山県（富山市）	係長 支援員	2	多様化する障害者の地域課題に応える、相談支援、地域支援に関わる職員の質の向上
12月	福井県経営協セミナー	福井県 （オンライン研修）	施設長	1	社会福祉法人の法人役職員向けセミナー
	東海北陸6県社会福祉法人経営者セミナー	福井県（福井市）	理事長 施設長 課長	3	社会福祉法人の役割や使命、経営のあり方等に関する研究協議する事を目的としたセミナー
	発達障害教育部会	福井県（勝山市）	係長	1	大人の神経発達症とは
1月	全国厚生事業団体連絡協議会研究大会	全国社会福祉協議会（東京都）	係長	1	厚生事業関連施設が実践の交流等を通してノウハウ等を共有し、より質の高い支援の場として研究大会を開催する
1月	支援スタッフ委員会研修会	福井県（福井市）	支援員	2	福祉現場におけるコミュニケーション能力向上
3月	障害福祉サービス事業所等集団指導	福井県（オンライン研修）	施設長 管理者 課長補佐 係長	4	令和6年度法改正について他

むつみ園

実施月	研修会名	主催者（場所）	参加職種	人数	研修内容
4月	相談支援専門員・サービス管理責任者および児童発達管理責任者等合同研修会	結とぴあ	サービス管理責任者	2	相談支援専門員とサビ児管の連携を考える
	奥越地区障害者自立支援協議会主催相談支援専門員・サビ児管等合同研修会	結とぴあ	管理者	1	『顔の見える関係作り』のはじめの一步 ～日頃感じている困りごとの共有からスタート～
6月	強度行動障害支援者養成研修	福井県社会福祉センター（オンライン）	課長補佐	1	基礎研修及び実践研修指導者研修
	いざ実践！新時代の販売力向上セミナー	オンライン	支援員	1	ナイスハートバザールの報告と、SNSを活用した情報発信のノウハウを学び、日々の販売活動の促進につなげる
	北陸地区知的障害者福祉協会施設長会議	富山県富山市 オークスカナル パークホテル富山	施設長	1	総会・中央情勢報告・施設種別部会
	一般廃棄物（ごみ）実務管理者講習	金沢勤労者プラザ	サービス管理責任者	1	一般廃棄物処理事業を安全・安心に確実に行う上で必要な実務・法律の知識及び技能を習得する
7月	北陸地区知的障害関係施設職員研究大会	ホテルニューオータニ長岡	支援員	2	コロナ禍により生活様式が変わった中、支援者として前を向いた支援への第一歩を踏み出す
	業務継続Webセミナー	むつみ園面会室	施設長	1	BCPの課題について・災害模擬体験セミナー
	令和5年度人権啓発講演会（WEB開催）	むつみ園会議室	施設長	2	日常の中の部落差別
	2023年度メンタルヘルス講習会	オンライン（Zoom）	支援員	1	一般職員向けメンタルヘルス講習会
8月	全国知的障害関係施設長等会議	むつみ園面会室	施設長	1	地域共生社会の実現に向けた障害福祉サービスの在り方
	第1回社会福祉法人経営セミナー	むつみ園 あかね会議室（オンライン）	管理者	1	事業継続計画（BCP）策定のポイント
	福井県立すこやかシルバー病院 専門職研修	福井県立すこやかシルバー病院	支援員	1	認知症高齢者の終末期ケア
	福井県立すこやかシルバー病院 専門職研修	福井県立すこやかシルバー病院	支援員	1	高齢者の食事援助
	福井県立すこやかシルバー病院 専門職研修	福井県立すこやかシルバー病院	看護師	1	優しさを伝える技術「ユマニチュード」
	福井県人権教育指導者研修会	むつみ園 面会室	施設長	2	部落問題と向き合う私たち～結婚差別を乗り越えて～

8月	社会福祉法人・施設「会計実務研修会(前期)」	むつみ園 面会室	施設長	1	社会福祉法人にとってのインボイス制度・電子帳簿保存法
9月	福井県ファシリテーション研修(基礎)ファシリテーションスキルアップコース	福井県社会福祉センター	課長補佐	1	強度行動障害支援者養成研修のためのファシリテーション研修
	令和5年度第1回ミュージック・ケア研修会	福井県社会福祉センター	支援員利用者	1 2	講師によるミュージック・ケアのセッションを受ける
	令和5年度 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	福井県生活学習館	支援員	1	講義及び演習
	セルフ学習会(施設研修)	福井県社会福祉センター	施設長 係長	1 1	社会福祉法人 佛子園 シェア金沢・B'sの視察
	高齢者のリハ実践講座	東京ビッグサイト会議棟	サービス管理責任者	1	
	大野市地域包括ケアネットワーク勉強会	結とぴあ (Zoom)	看護師	2	「在宅や施設における高齢者の救急対応を学ぶ」
	10月	災害時において安心安全な給食を提供するために	むつみ園 面会室	栄養士	1
第7回福井県知的障害者福祉協会職員研修		福井市地域交流プラザ	係長 支援員	1 1	「共に学び、共に語ろう、これからの福井の福祉を」現代の福祉サービス従事者に求められる支援力、実践力について学ぶ
福祉職員専門課題別研修 高齢者・障害者虐待防止研修		サンドーム福井	支援員	2	「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」等
福井県知的障害者福祉協会 虐待防止・権利擁護委員会研修会		福井県社会福祉センター	課長補佐 サービス管理責任者 支援員	1 1 1	国県における県障がい者虐待事案確認後の県の対応等(事例等)
11月	大野市危険物安全協会研修会	大野市消防本部	支援員	1	講義「油処理剤の基礎知識」実技「漏油処理体験」
	福祉サービス苦情解決機能強化セミナー	大野荘 むつみ園 (Zoom)	施設長 管理者 課長	2 1 2	福祉サービス事業所における苦情解決機能等の一層の向上を図る
	東海北陸ブロック社会就労センター研究協議会「福井大会」	福井市にぎわい交流施設	管理者 支援員	1 1	「共生社会の中で 働く・暮らす を考える」～個々が望む地域生活を支えるには～
	令和5年度大野市自衛消防クラブ研修会	大野市消防本部	看護師 事務員	1 1	火災発生時の初期対応・消火器訓練・濃煙体験等
	福井県障がい者虐待防止・権利擁護研修B施設従事者コース	きらめきみなと館	課長補佐	1	障がい者虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応、虐待発見後の適切な支援や関係機関との連携の強化等を図るため

11月	ミュージック・ケア研修会	福井県社会福祉センター	支援員	1	日本ミュージック・ケア協会による講義とセッション、実技指導
	防災委員会研修（福井県知的障害者福祉協会）	福井県生活学習館	施設長	1	中越地震の経験とその教訓BCPをどう生かしていくか
11月 12月	北陸地区地域支援部会・相談支援部会合同研修会	富山県富山市 ボルファート富山	係長 支援員	1 1	多様化する障害者の地域身体に 応える、相談支援、地域支援に 関わる職員の質の向上
12月	福井県サービス管理責任者実践研修	福井県社会福祉センター	係長 支援員	1 1	障害者総合支援法の適切かつ円滑な運営に資するため、サービスや支援の質の確保に必要な知識、技能を有するサービス管理責任者の養成を図る
	日中活動支援部会全国大会	ホテルマイステイズ新大阪	施設長 課長補佐	1 1	「その人らしい暮らしの実現に向けた社会参加」～日中活動支援と居住支援の実際的連携～
	公益財団法人 松原病院 保険医療特別講演会	福井県自治会館	係長	2	ゲームを止めさせれば解決するの？～ゲーム障害を90分で理解する～
	東海北陸6県社会福祉法人経営者セミナー「福井大会」	福井県国際交流会館 ザ・グランユアーズフクイ	理事長 施設長 課長	1 1 1	「持続可能な福祉社会を築く～未来志向で考える法人運営～」をテーマにあらためて社会福祉法人の役割や使命、経営のあり方等に関する研究協議することを目的としたセミナー
	福井県強度行動障害支援者養成研修（実践研修）	福井県生活学習館	支援員	2	適切な障害特性の評価および支援計画の作成ができる職員の人材育成を進める
	支援スタッフ委員会研修	福井県社会福祉センター	支援員	1	福祉現場におけるコミュニケーション能力向上
1月	全国知的障害福祉関係職員研究大会 山梨大会	録画されたものを、後日動画で視聴	支援員	2	
	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	むつみ園面会室（オンデマンド配信）	サービス管理責任者	1	就労系障害福祉サービスの「支援の質」とは～実践を通して考える～
	障害福祉事業経営セミナー	むつみ園 面会室	施設長	1	令和6年度報酬改定のポイントを理解するとともに、報酬改定の内容を踏まえ今後の事業経営の方向性等について考察する
3月	三団体合同研修	福井県社会福祉センター	支援員	3	「災害を風化させないで！私たちは過去の災害から何を学んでいくか！？」グループワーク等
	障害福祉サービス事業所等集団指導（説明会）	オンライン方式（各事業所にて）	施設長 管理者 課長補佐 係長	1 1 1 1	令和6年度制度改正について他

【2】所内研修（大野荘・むつみ園）

		研修項目	研修の内容	講師	参加者(人)
4月	むつみ園	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊厳について考える	長谷川育子	21
	よもやま	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊厳について考える	西川一栄	6
6月	むつみ園	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	清水看護師	19
	よもやま	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	清水看護師	4
7月	むつみ園	感染対策実践研修	実際の場면을想定しての実践研修	施設長 清水看護師	10
	合同	新任者職員研修	職場のコミュニケーションについて理解を深める。	加藤直子 松間奈美	6
8月	むつみ園	身体拘束について ①	身体拘束をせずに事故を防ぐ方法について学ぶ	長谷川育子	21
	大野荘	感染者対応研修	感染者が出た事を想定した訓練として、ガウンテクニックとゾーニングの設置の仕方を学ぶ。	看護師 貝川久幸 尾山勝也	33
	大野荘	権利擁護研修	尊厳の概念から個人の尊厳について学ぶ。	貝川久幸	16
	合同	初級職員研修	労働衛生について理解を深める。	西田美幸 鈴木博信	4
	よもやま	虐待防止について	虐待防止について学ぶ	西川一栄	6
10月	合同	中級職員研修	各職種と情報共有し、より良い支援に繋げる。	江波和美 川端一子	7
	合同	権利擁護虐待防止について	虐待防止法及びアンガーマネジメントについて学ぶ。	ハーモニーかすみ 番場知明氏	34
11月	よもやま	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊厳について考える	西川一栄	6
	むつみ園	利用者の尊厳	チェックリストを用い利用者の尊厳について考える	長谷川育子	21
	合同	防犯研修	不審者侵入に対する職員の対応方法を学ぶ。	大野警察署 職員	35
	よもやま	感染対策研修	実際の場면을想定しての実践研修	施設長 清水看護師	6
	大野荘	中級職員研修	利用者主体の個別支援計画作成について学ぶ	葭安鉄也 大藤雅弘	7
12月	むつみ園	虐待防止研修①	スペシャルラーニングを視聴し、むつみ園のグレーゾーンについて考える ※グループワークの実施	施設長 長谷川育子	21
	よもやま	虐待防止研修	グレーゾーンについて学ぶ	西川一栄	6
1月	むつみ園	身体拘束について ②	スペシャルラーニングを視聴し感想を提出する	長谷川育子	21

2月	よもやま	身体拘束について	身体拘束について学ぶ	西川一栄	6
	合同	救急救命研修	AEDを使用した心肺蘇生について学ぶ。	大野市消防署 坂上氏	25
3月	むつみ園	虐待防止研修	むつみ園のグレーゾーンから学ぶ	施設長	20
	むつみ園	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	清水看護師	19
	よもやま	感染対策研修	ガウンテクニックの習得	清水看護師	4

【3】復命報告

研修名	報告日	報告者
障がい者の権利擁護について	4月27日	支援員
リスクマネジメントにおけるハラスメント研修	5月30日	課長補佐
怒りのある方への対応についての研修	6月29日	支援員
ハラスメント防止講習会（管理者向け）	9月27日	課長
東海北陸社会就労センター研究協議会	11月30日	施設長
北陸地区知的障がい関係施設職員研修会	11月30日	支援員
高齢者・障がい者虐待防止研修	R6.1月30日	支援員
地域包括ケアネットワーク	2月29日	看護師（係長）

【4】各種研究会

（1）ケアマネ研究会

今年度より、福井県立大学助教牛場氏に講師を依頼し4回の活動を行った。

第1回目は講義。2回目・3回目は職員から担当利用者の事例検討、4回目は総括と振り返りを行った。

講義ではケアマネジメントとは何か？等、基本的な用語の確認から基礎的な知識や、ケアマネジメントのプロセスについて確認し、事例検討をするときの基本的な考え方を学んだ。

事例検討では野中式ケア会議を取り入れた。事例提供の情報は簡潔に要点をまとめ、全員で一つの事例を検討し限られた時間の中での事例検討であったが、若手・中堅・上級それぞれの目線で事例について掘り下げ、活発な意見交換を行うことが出来た。利用者のストレングスを意識しながら、本人の現状と未来像の「ずれ」をしっかりと確認し、そこからステップアップ的に支援を行うという、基本的で一番大事な視点を再確認することが出来た。また実際に各施設の利用者を取り上げて事例検討を行うことで普段は一人で個別支援計画の立案を行っているが、アセスメントの部分からメンバー全員で取り組んでいく方法は、自分にはない視点や考え方を発見することが出来た。普段の業務の中では利用者一人ひとりに対して、職員複数で計画立案する事は無いため、実際の業務に取り入れる事は難しいが、困難事例に対して利用してみる等今後活かしたい。

(2) 利用者支援研究会

松原病院の公益事業として、施設と合同で研究会を実施。

第1回は6月14日に松原病院診療支援部歯科衛生士の下内聖子氏に講師を依頼し「口腔ケアと心身の健康」について研修を実施する。大野福祉会の職員のみ12名が参加した。第2回は9月13日に生き活き相談センターの松村菜穂美看護師に講師を依頼し「ユマニチュード実践 ～ケアをする、されるってどういうこと?～」をテーマに研修を実施する。大野福祉会の職員のみ14名が参加した。

12月9日には、松原病院主催の特別講演会があり、福井県自治会館多目的ホールにて「ゲームを止めさせれば解決するの? ～ゲーム障害を90分で理解する～」をテーマに開催される。大野福祉会からは3名が参加した。

【5】行事企画

(行事月別実施表)

月	日	大野荘	日	むつみ園
8	2	花火打ち上げ	2	花火打ち上げ
9	6・14	日帰り旅行	26	日帰り旅行
10			16	日帰り旅行
11	3～5	大野市総合文化祭	3～5	大野市総合文化祭
	22	物故者法要	22	物故者法要
12	7	クリスマス会(アトラクション・おやつ・プレゼント配布)	12	クリスマス会(アトラクション・おやつ・プレゼント配布)

【6】地域との交流活動

小山小学校との交流行事として、5月に行われた体育大会にて、玉入れ等の競技に参加をした。

【7】ボランティア

(1) 美容・理容

登録者名(グループ名)	参加人数	事業の内容
大野美容組合	12	利用者美容
大野理容組合青年部	4	利用者理容

(2) 編み物教室

登録者名(グループ名)	参加人数	事業の内容
0氏	1	編み物教室講師
I氏	1	お茶教室講師

【8】 広報紙の発行

広報誌「雪やなぎ」については9月・2月の発行を行い、コロナの状況も落ち着き、行事や日常の利用者の方達の笑顔を届けました。今後も法人の情報も含め多くの方々に見て頂けるよう継続して発行します。

【9】 教育実習

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類になり、奥越明成高等学校生活福祉課福祉コース教育実習（介護実習）、福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科（ソーシャルワーク実習）ともに中止することなく、基本的な感染症対策を講じながら以下のように実施した。ソーシャルワーク実習は今年度より新カリキュラムとなり、実習期間中十分に体験できない学習項目は座学での学びに切り替えたり、レジデンシャルソーシャルワークに重点を置いたプログラムを立てるなどして可能な限り網羅できるよう対応した。

何れの実習も2週間前からは県外への外出等控えてもらい、実習前後2週間を含め実習中毎日検温等の健康チェック表を記録してもらうなど、十分対策を講じた上で実施した。より良い実習のためには実習担当者だけではなく、職場全体の協力を得て取り組むことが不可欠であり、職員の資質向上のためにも引き続き積極的な実習生の受け入れを行ってきたい。

救護施設 大野荘

実習名	実習期間	人数
福井県立奥越明成高等学校生活福祉科福祉コース介護実習	I期：7月10、11、14、18、19日 II期：8月18、21～25 (計11日間)	2
福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科ソーシャルワーク(社会福祉士)実習	9月19日～10月26日 (帰校日、土日祭日を除く 計24日間)	1

障害者支援施設 むつみ園

実習名	実習期間	人数
福井県立奥越明成高等学校生活福祉科福祉コース介護実習	I期：7月10、11、14、18、19日 II期：8月18、21～24	2
仁愛女子短期大学 幼児教育学科施設実習	7月31日～8月10日(10日間)	2

Ⅷ 相 談 支 援 事 業

【1】 指定特定相談支援・指定障害児相談支援

・ 計画相談支援

市町からの支給決定内容に基づき、サービス等利用計画（障害児支援利用計画）の作成およびモニタリングを対応した。また、サービスの変更・調整を伴うときには、適宜、臨時のモニタリングやサービス担当者会議を開催して対応した。

令和5年度の特定相談での新規契約件数は0件、障害児相談での新規契約件数は0件だった。一方で、令和5年度の特定相談での終了件数は7件、障害児相談での終了件数は3件だった。内訳としては、「事業所変更希望」が1件、「介護保険への移行」が1件、「奥越地域以外への転居」が1件、「サービス利用の終了」が4件、「死亡」が3件だった。

・ 基本相談支援

ご本人・ご家族からの相談内容に応じながら、福祉サービスに限らず生活情報や社会資源に関する情報提供を行った。

・ 令和5年度 件数報告

〈上半期〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
契約件数（※月末時点）	85 (10)	84 (10)	85 (10)	85 (10)	85 (10)	85 (10)
新規件数	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
終了件数	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
モニタリング件数	22 (2)	12 (0)	20 (2)	22 (1)	8 (2)	17 (2)
計画案作成件数	5 (0)	4 (0)	6 (0)	9 (1)	4 (1)	4 (2)
本計画作成件数	4 (3)	5 (0)	4 (0)	6 (0)	9 (1)	5 (1)
加算対象件数	1 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)

〈下半期〉

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約件数（※月末時点）	84 (10)	82 (10)	81 (10)	80 (10)	80 (10)	76(7)
新規件数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
終了件数	1 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (3)
モニタリング件数	22 (1)	12 (1)	18 (1)	20 (1)	8 (2)	16 (5)
計画案作成件数	5 (1)	2 (0)	3 (1)	6 (1)	2 (1)	5 (2)
本計画作成件数	4 (2)	5 (1)	2 (0)	3 (1)	6 (1)	2 (1)
加算対象件数	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)

〈令和5年度 総件数（前年度比）〉

モニタリング：197 (20) 【－ 25】	本計画作成：55 (11) 【－ 1】	加算申請：6 (0) 【－ 31】
------------------------	---------------------	-------------------

※（ ）の数値は障害児の内訳

【2】指定一般相談支援

・地域移行支援

令和5年度の地域移行支援の実績は1件、新規契約件数は1件だった。救護施設（居宅生活訓練事業）からグループホームへの移行で、支援期間は10か月であった。

・地域定着支援

令和5年度の地域定着支援の実績および新規契約件数は0件だった。

【3】生活困窮者自立相談支援事業

（1）実施状況

1. 相談件数・相談内容

令和5年度の新規相談件数は47件、相談内容は主に経済的困窮で「収入・生活費」「債務」「失業・休職」に関するものが多かった。必須事業である住居確保給付金は対象者はなく、家計改善支援事業は2件、就労準備支援事業は1件と、前年度からの継続での利用のみであった。

（2）利用実績

相談者数	令和4年度		令和5年度	
		44名		47名

	令和4年度		令和5年度	
	人数	比率	人数	比率
性別				
男性	25	53.2%	21	44.7%
女性	19	40.4%	25	53.2%
不明	0	0%	1	2%

	令和4年度		令和5年度	
	人数	比率	人数	比率
世帯				
単身	12	26%	20	43%
複数	31	66%	23	49%
不明	1	2%	4	9%

	相談経路	令和4年度		令和5年度	
		人数	比率	人数	比率
本人	来所	7	15%	7	15%
	電話	8	17%	5	11%
家族知人	来所	1	2%	1	2%
	電話	2	4%	3	6%
関係機関		23	49%	20	43%
その他		1	2%	11	23%

	年代	令和4年度		令和5年度	
		人数	比率	人数	比率
10歳代		1	2%	0	0%
20歳代		3	6%	2	4%
30歳代		1	2%	4	9%
40歳代		6	13%	5	11%
50歳代		11	23%	11	23%
60～64歳		5	11%	4	9%
65歳以上		14	30%	17	36%
不明		3	6%	4	9%

相談内容	R 4	R 5
失業・求職について	16	8
収入・生活費について	34	18
債務について	20	6
家族・本人の健康・病気・障害について（医療費が高い等）	9	11
住まい・家賃について	12	5
家族関係・人間関係について	16	10
家族・本人のひきこもり・不登校について	5	5
子育て・介護について	4	0
その他	6	12

（3）職員研修実施状況

月	研修会名	開催地	参加職種	人数	研修内容
5月	令和5年度 第2回 ひきこもり支援関係 機関職員研修会	オンライン研修	相談員	1	ひきこもりの基本的理解 家族への相談対応について
7月	特例貸付の償還猶予 後の償還免除について	オンライン研修	相談員	1	償還免除と支援・対応について
8月	福井県ひきこもり対 策連絡協議会	オンライン研修	相談員	1	ひきこもり支援について
9月	令和5年度家計改善 支援事業従事者養成 研修(前期)	オンライン研修	相談員	1	家計改善支援員 養成研修
10月	令和6年度 家計改 善支援事業従事者養 成研修(後期)	オンライン研修	相談員	1	家計改善支援員 養成研修
11月	令和5年度 若者等 支援機関地域ネット ワーク意見交換会	結とぴあ	相談員	1	ひきこもり・不登校等、 若者を対象にした支援、 課題について
	令和5年度 ひきこ もり・不登校学習会	オンライン研修	相談員	1	ひきこもり支援について

【考察】

新規相談は例年通りの件数を受け付けたが、過去に相談歴がある相談者が再度相談に来ることも多かった。また、新型コロナウイルス関連の特例貸付の償還が始まったものの生活状況が変わらず返済が困難となっている相談者も多くいる。家計相談や就労支援など生活の再建に向けた支援が必要となるが、事業につなげられていない状況である。一方で、社会福祉協議会の貸付やふく福くらしサポートなど、借金や支払いの立て替えが出来るサービスにはつなぎやすく、事業の利用も前年度に比べ多くなっている。しかし後者の支援においては、抱えている問題を一時的に解消するだけで、根本的な課題の解決には至らない。

このことは相談者にもよく理解してもらわなければならないし、また理解してもらえよう支援者側からも働きかけることも必要である。

相談の多くは経済的困窮であるが、それだけでなく様々な問題が複雑に絡み合っている困難ケースが非常に多い。困難なケースであるほど他の支援機関やサービスにつながりがちになるが、他機関へつなぐだけが支援ではない。出口支援を充実させるとともに、自立支援機関としての地域での役割や支援のあり方について今一度考え、相談者の自立・生活再建に向けた支援を展開できるよう取り組みたい。

【4】生活困難者総合相談・生活支援事業

令和5年度実績

(件)

	新規相談	継続相談	現物給付	返還金対応
4月		1	1	
5月	1		1	
7月	2		2	2
8月		1		
9月				1
10月	1		1	
11月		1	1	
12月	2		2	1
1月	1		1	
2月		1	1	
計	7	4	10	4

今年度も法人連携事業であるふく福サポート事業に取り組んだ。相談から現物給付に至るまでの時間も緊急性が高い事が多いため、あまり時間を掛けられない現状がある中で、困窮の度合いや支援の必要性を見極めるは非常に判断が難しかった。支援後、生活保護になった方や、就労先を見つけ自立した生活を送っている方など様々なケースがあるが、支援をする事で相談者と関係機関とのつながりを築き、少しでも生活環境が改善されるように努めていきたい。

IX 苦情解決報告

1. 苦情解決

【1】 救護施設 大野荘

苦情申し立てはなかった。

【2】 障害者支援施設 むつみ園

苦情申し立てはなかった。

【3】 障害福祉サービス事業所 よもやま

苦情申し立てはなかった。

【4】 共同生活援助事業所（グループホーム）

苦情申し立てはなかった。

【5】 相談支援事業所

受付年月	苦情の内容	苦情への具体的な対応
	<p>【相談支援事業所】 <経緯> A様より電話にて、病院に通院し、その後B相談員に話した所「死ぬ気持ちがあるのか」と言われ、自分は鬱病もあり鬱のある人に死などの言葉はタブーではないのか、とても辛かった。今後は担当者を変えてほしい、変える責任をB相談員にしてほしい。と話があり、大野荘会議室にて苦情相談の受け付けを行う。</p>	<p>A様の希望されることはお聞きしたが、相談員の変更は当法人にはその権限はなく、それはB相談員も同じであることであり、相談員変更については、今後どのようなになるのかはその時点ではお答えできない事をお伝えする。大野市へはA様から当法人に苦情相談があり、相談員の変更を希望されている事を相談することをお伝えし、今後分かることがあれば当法人か若しくは大野市等関係機関から連絡させてもらうことをお伝えし、A様もそれで良いと返答があった。</p> <p>A様から苦情相談を受け付けた内容を大野市健康福祉部福祉課精神障がい者（児）福祉の担当者に報告する。（大野市福祉事務所相談室にて）相談員変更についてA様に連絡を入れ、相談員変更を希望していることが確認できたため、変更申請を行った。</p>

※苦情となった日の相談について、B相談員に聞き取りを行い、苦情内容のような発言はしていないとの報告がある。（当日はふらっとC相談員も同席しており、相談中にAさんから苦情内容の発言もそれに類する発言もなかったと報告を受ける）

2. ひやりはっと・事故報告

【1】大野荘

ひやりはっと報告件数 83件

事故報告件数 225件

令和5年度の上半期の事故報告の転倒の件数は、全体の半数以上である。発生時刻は12:00～18:00までとその中でも夕方が多くみられた。発生場所は居室・ホール・施設外が半数以上で、転倒と無断外出が占めている。ひやりはっと報告は、提出が少なく考察が難しい、職員への危機管理の啓発より一層促していく必要がある。事故の発見時間は職員数が比較的多い日中の時間に多く、利用者の危険な場面を確認している。

下半期の転倒の件数が事故の種別を見ると全体の3分の2が転倒・転落であり、4月～9月に比べても多くなっている。発生時間も8:00～18:00までの間で、半数以上の事故が確認されている。冬期に向けて気温等が下がることで、身体の動きにくさも関係していると思われる。転倒する利用者の多くが班活動の参加が少なく、下肢筋力の低下が考えられる。利用者の高齢化や認知機能低下で、転倒事故に対しての、個別の対応や声掛けを行っているが、増加を抑えることが難しい。また、転倒された高齢の利用者の方に、大腿骨の骨折をしてしまう事例が多く見られた。病院への入院やリハビリの期間が長くなり、歩行が出来た方も歩行器や車椅子が必要になってしまう事もみられている。現状を踏まえて介護研修を受け、転倒、事故防止に繋げていく。

【2】むつみ園

ひやりはっと報告件数 199件（むつみ園 194件・よもやま 0件・GH 5件）

事故報告件数 108件（むつみ園 94件・よもやま 7件・GH 7件）

ひやりはっと・事故報告の特徴として、例年と同じように転倒・転落の発生が最も多く、事故件数が57件となり、全体の53%を占めた。ただし、上下半期で比べると、上半期は39件だったが、下半期は18件と転倒・転落は減った。今年度は、転倒対策として、転倒の危険が高い場面での付き添い、あるいは、必要に応じての車いす等での対応、居室内の整理、靴の履き方の確認、機能維持を目的とした体操の機会の設定、その他、むつみ園では、転倒件数を視覚化することで、職員の転倒予防に対する意識向上に取り組んできており、その効果が下半期になって表れてきていると考えられる。また、転倒・転倒のひやりはっと件数は、上下半期ともに50件以上報告されている。そのため、ひやりはっとの段階で転倒・転落の危険性に気付き、事故につながらないように継続して発生予防に努めていく必要がある。

むつみ園では、利用者間のトラブルにおいても特徴が表れている。これまでは、比較的年齢の若い方が当事者となることが多かったが、今年度は高齢の方が当事者となる事例が多かった。その要因として、加齢に伴って認知機能等が低下し、元々有されていた気質を抑えられずに他の方と衝突する事例が増えたためと考えられる。定期的な往診で専門医に相談し、また、当事者の方たちが穏やかに過ごせるように支援を検討し、支援手順を整え

ることで、発生予防につなげていく。

よもやまの事故の内訳として、転倒が2件、作業に伴った外傷が1件、誤嚥が1件、無断外出が1件、利用者間のトラブルが2件あった。事故報告で挙げられた危険な場面および個所は、都度改善して対応している。今後も継続して、利用されている方の様子を見守り、事故の発生予防に努めていく。

GHの事故の内訳として、転倒・転落が5件、与薬・誤薬が2件であった。ひやりはっとは、転倒・転落が1件、金銭・契約関連が2件、与薬・誤薬が2件だった。金銭・契約関連の内容として、不審者が来訪あるいは電話で利用者に接触してくる事例であった。これらは、地域で生活されているGH利用者ならではの事例であり、安心した生活を守るように、今後も早期発見・早期対応していく必要がある。

【3】第三者委員の所見

(1) 古屋 雅章 委員

両施設共、利用者の高齢化により転倒による事故が増えていることは、当然の結果だと思います。しかし「ひやりはっど」の発生の段階で、物理的にも人的にも対策を検討しながら環境改善されているので、「事故」を少なくしているように見受けられます。

利用者の生活上の不安や苦情処理についても、日課の中での「ホームルーム」の活用や「よろず相談」の活用によって、利用者の日常生活の安定につなげている事を評価します。

(2) 伊藤 博司 委員

ひやりはっどは、事故や災害につながる要因を特定し対策する貴重な機会であり、減らすためには職員同士、利用者との日々連携が一番であると思います。

令和5年度の報告、件数を見る限り、減少傾向とまではいきませんが、事務所内での情報共有などいろんな事象に対応されていることが伺い知れます。

事故等が起きてしまった後に対策を考えるのではなく、災害が発生する前に、もっとたくさん起きているひやりはっどがなぜ起きているのか分析して対策をとることが重要であると考えます。

事柄が見つかった時点で原因が特定されたと調査が終了するケースが多く、その人がミスに至った背景などを深掘りするケースはほとんどないのではないかと思います。

本来は、日常業務の中でほとんどの場合うまくいっているのはなぜかを検証し、平常の状態がこういうものかを理解する事で、初めて異常が分かるようになるのではないかと考えます。視点を変えることで、ひやりはっど報告の活用方法も変わっていくのではないかと思います。ひやりはっど報告を事故が起きそうになった失敗に近い事例として受け取ってしまうと報告した人を非難することになり、予兆となるひやりはっど情報が隠れてしまうと事故対策が出来なくなってしまいます。

失敗を回避できた事例として受け取り、職員全員にヒヤッとした経験を共有するルールを作って周知すること、このとき担当者を責めないという取り決めをした上で、報告し合う場と時間を作ることが重要であると考えます。そしてどのような対策が考えられるかを皆で検討し対策を決め、そのひやりはっど対策を掲示するなどして周知したらど

うでしょうか。ひやりはっつによって生まれた対策を実施したことで改善された事例については、社内報などを通じて広く情報共有すると職員・利用者全員の意識向上にもつながるのではないのでしょうか。ひやりはっつは、日々業務を行っていただければ誰もが経験する事ですが、重大な事故や軽傷事故の発生を防ぐためのヒントが隠されています。積極的に報告し合える職場づくりを行う事が大事であると思います。

(3) 金森 洋 委員

令和5年4月から令和5年9月までを前期、令和5年10月から令和6年3月までを後期として所見を述べさせていただきます。

(大野荘)

前期は、転倒・転落事故発生件数51件は、前年比と変わらないが、ひやりはっつの転倒・転落の危険性9件は、前年度比較で大幅に減少しているため、改善された物と評価できます。

後期は転倒・転落事故発生件数82件で、ひやりはっつの転倒・転落の危険性発生件数21件は、いずれも前年度比較でやや増加しており、注意が必要と思われます。

(むつみ園・よもやま・GH)

前期は、転倒・転落事故発生件数39件で前年度よりかなり増加しており注意が必要と思われる。

ひやりはっつの転倒・転落の危険性発生件数57件は前年比よりよりやや減少している。

後期は、転倒・転落事故発生件数18件は、前年比でかなり減少している。ひやりはっつの転倒・転落危険性発生件数50件で、前年度比較で倍増しているのが気になります。但し、ひやりはっつ で収まって実際の事故になっていないのは、ある意味、評価できると思います。

3. 意見箱

意見箱を大野荘、むつみ園、よもやまに設置しています。投書の内容は、食事メニューの希望やおやつ（饅頭を出して欲しい）提供について、カラオケ機器の導入、冷暖房の運用時間についての希望があり、毎月、権利擁護委員会にて投書を確認し、対応を検討、回答書を掲示板等に貼り、利用者に見てもらっています。

